

SAD
DE

サド
II

魔性の姫

千之ナイフ

SENNO KNIFE 古典名作集5

青林堂



古典名作集 5

ワ
ツ

II

魔性の姫

千のナイフ

SENNO KNIFE

青林堂

SADE

CONTENTS

II

※墮天使の島※

3

※インキュバスの卵※

23

※姫※

43

※恋する人形※

63

※Iミリーと奇妙な腕※

95

※SADE 薔薇の館※

ACT・I 135

ACT・II 159

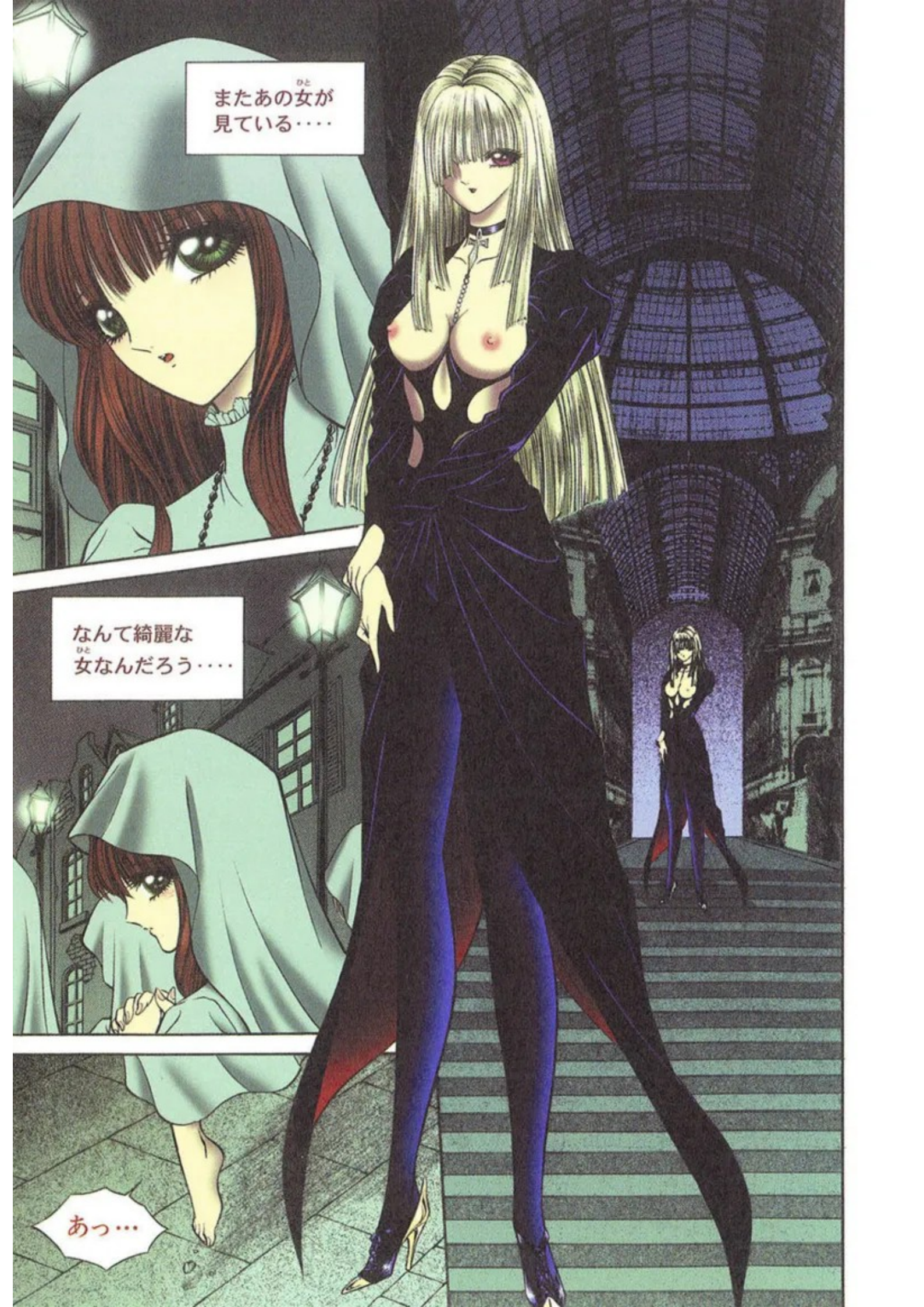
ACT・III 181

墮天使の島

Veil





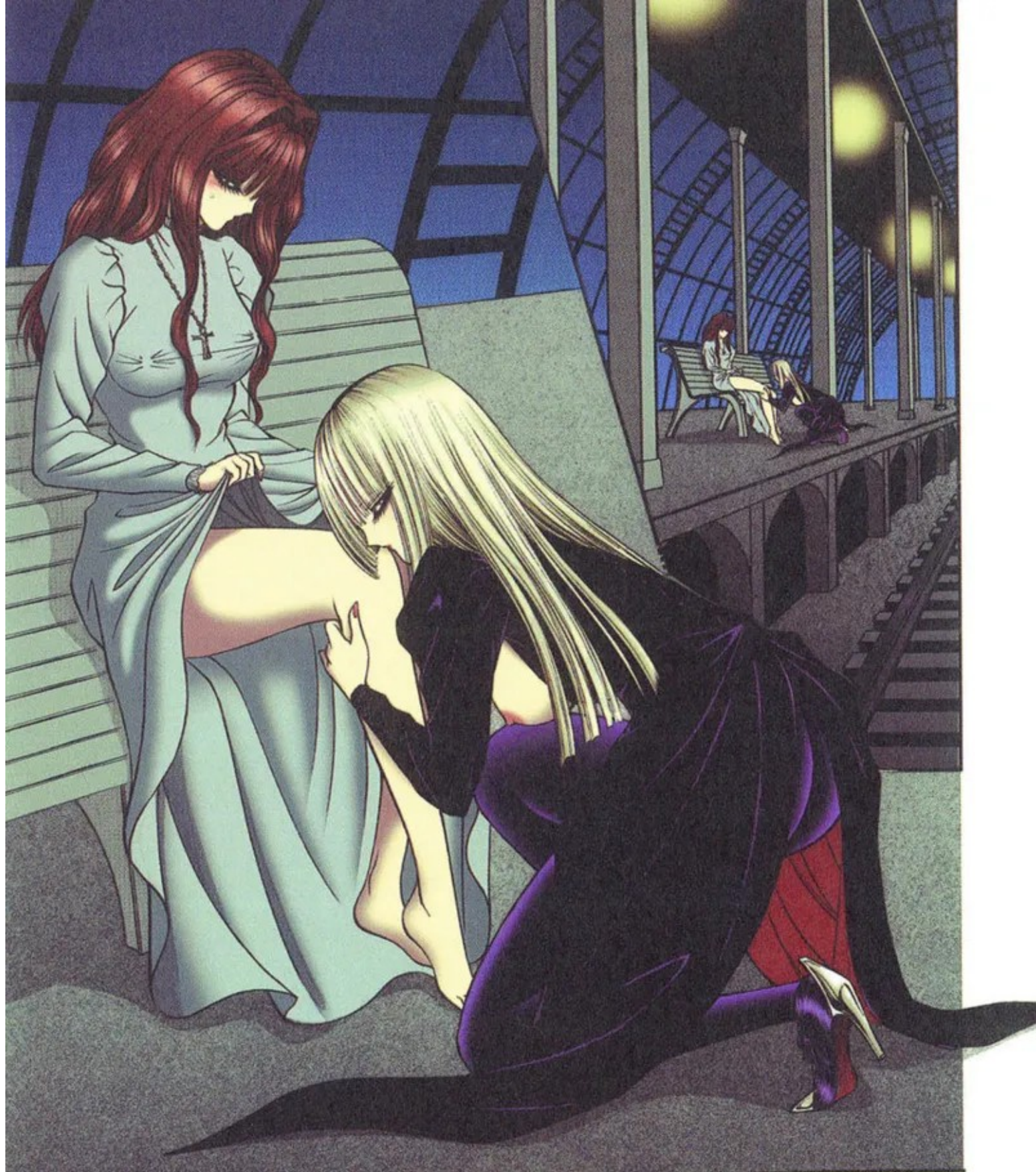


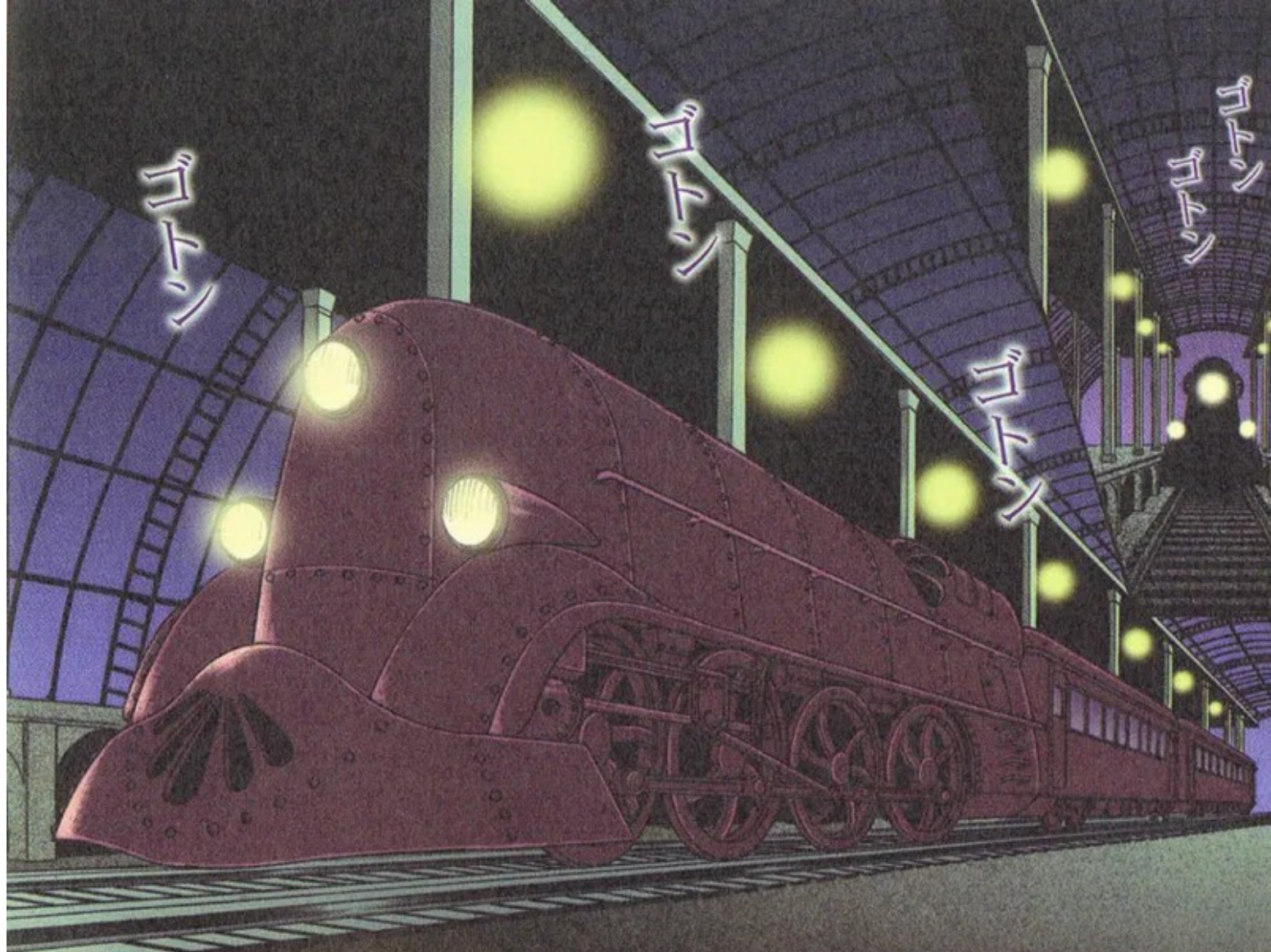
またあの女が
見ている……

なんて綺麗な
女なんだろう……

あっ……







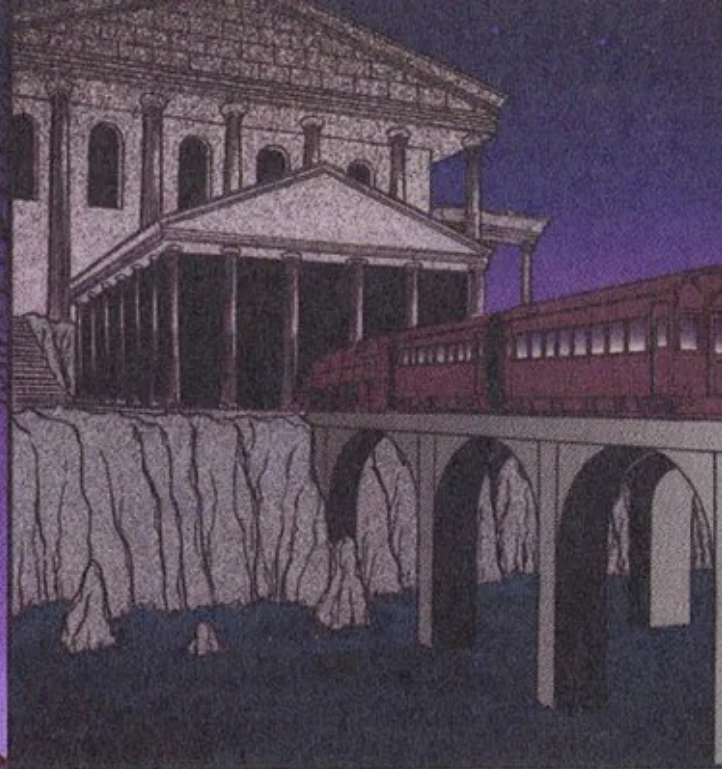


ゴッ
ゴッ
ゴッ



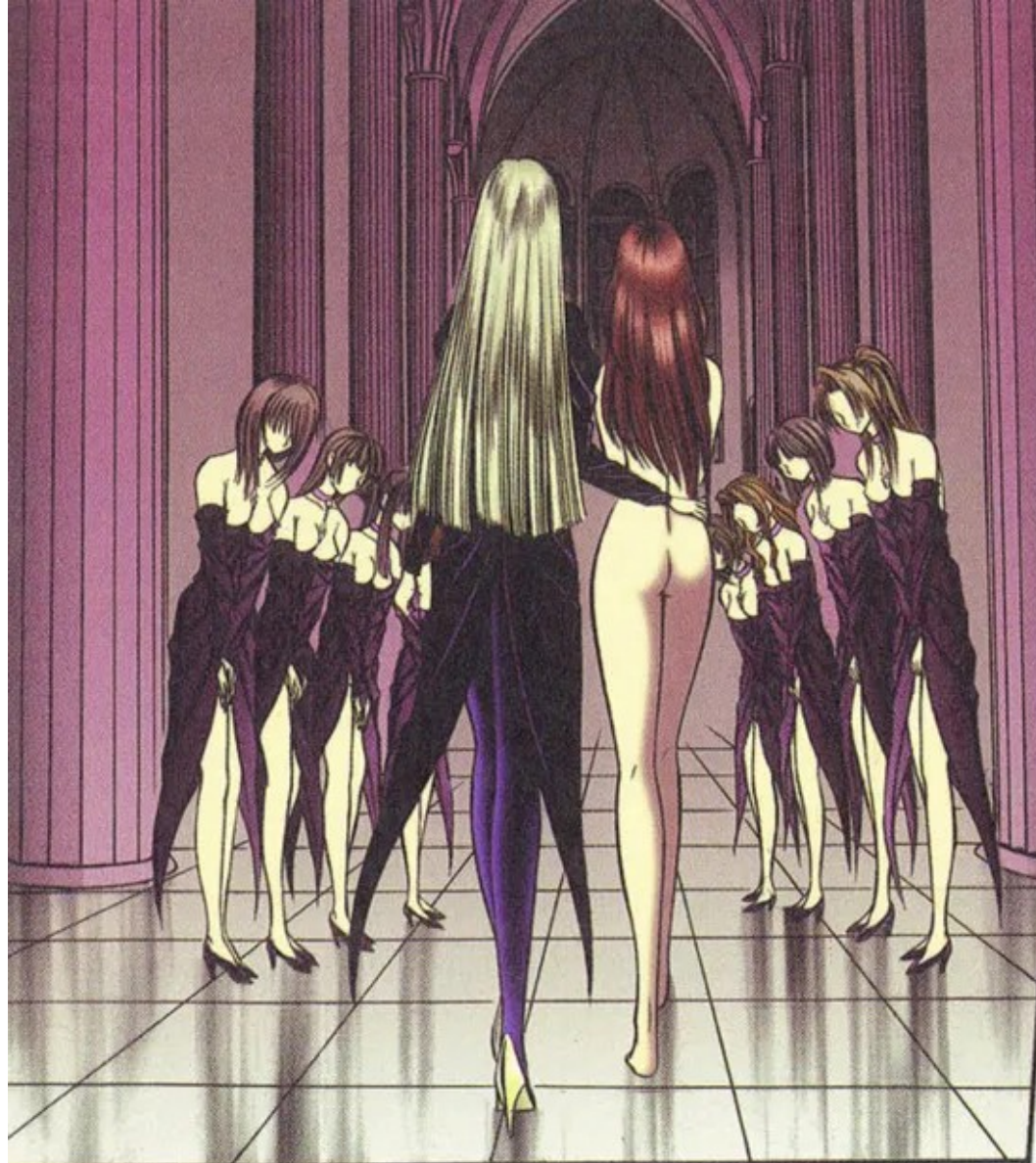
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

あ あの……
ここはいったい



ここは
堕天使の島
ベルベット





墮天使の島？

.....



ま 待って!!
私は...



あ.....

さあ...
あなたは
こっちよ



さすがは
バイオレット様が
選んだ娘……

綺麗なカラダ…
これならきっと
お客様に悦んで
もらえるわ

あ
ああ…

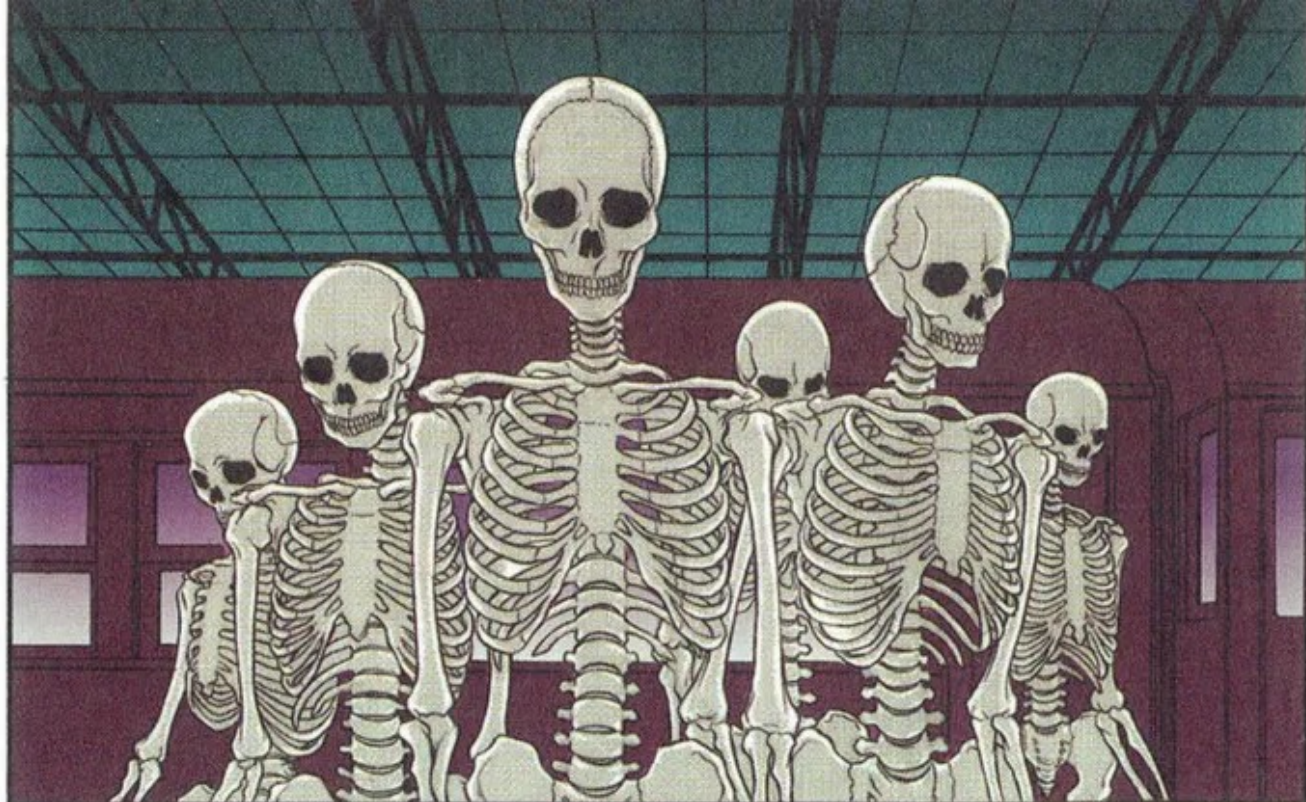


いいこと…
この館の中では
あなたのカラダは
お客様のもの…

お客があなたを
抱きたいと言ったら
あなたはそれに
従わなくては
ならない…

それがここ
ベルベットの
ならわしなの
だから……

大丈夫…
お客はみんな
骸骨か何かだと
思えばいいの







あなたは
ベルベットの
掟に背いた…

罰を受けねば
なりません…



あっ

ああっ





あなたが
ここに来たのは

あなたが心の中で
そう望んでいたから
なのよ……

わ 私は…



はああ

こんなに
濡らしちゃって

ああっ

ああん…

さあ…言って
ごらんなさいな
私はみだらな
娘だと…

だ…
だから……

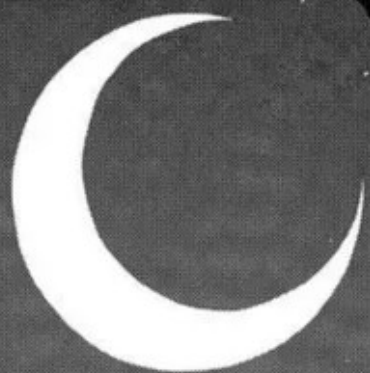
わ、私は…
私はみだらな
娘です…

だから
もっと……

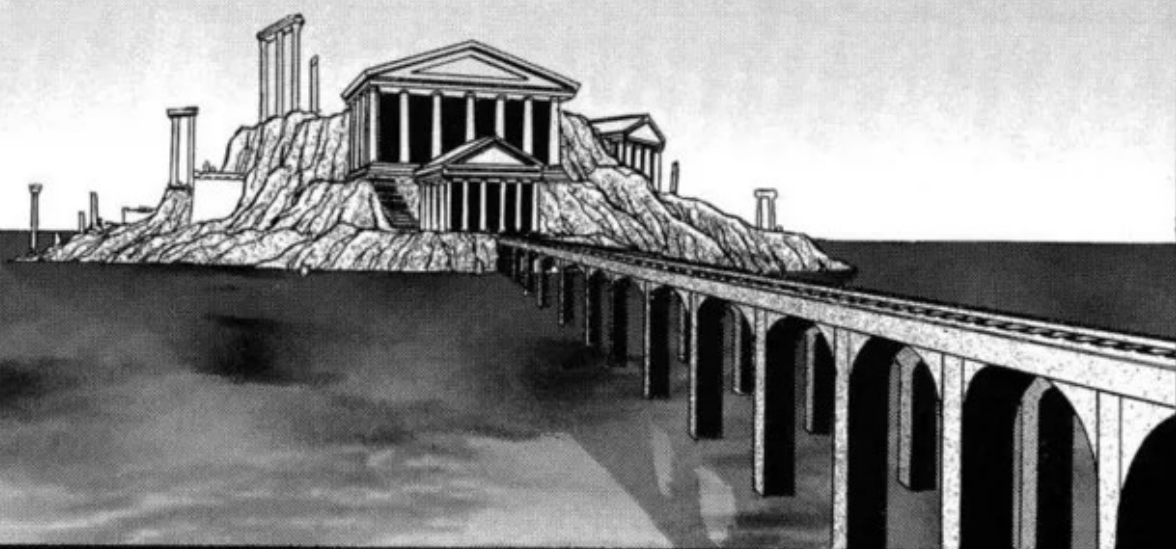
そう……

私が望んだ
こと……

すべては
私が……

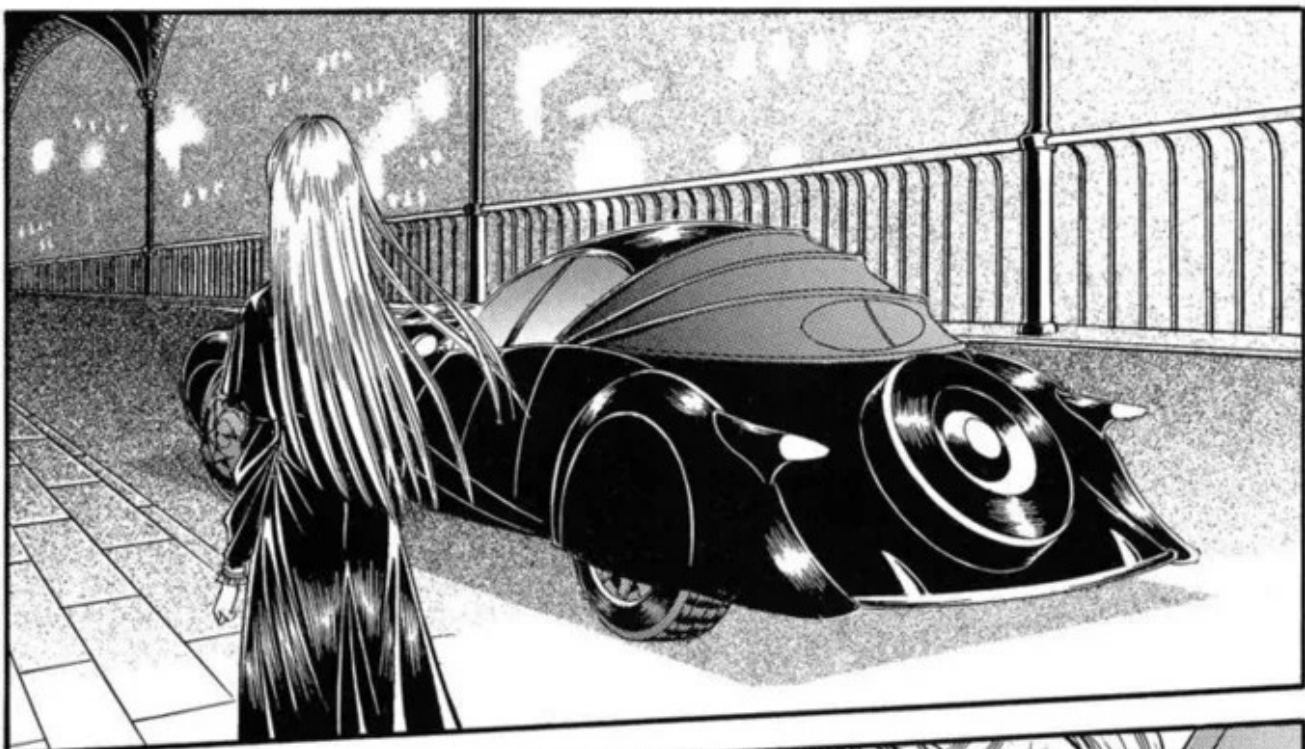
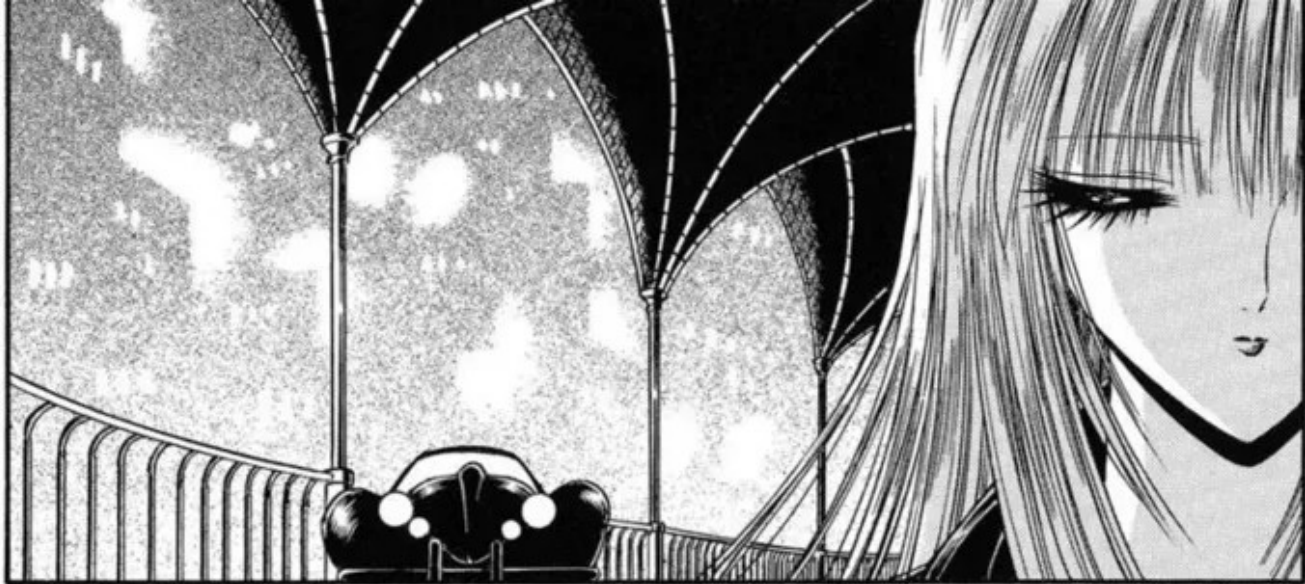


ここは
墮天使の島……



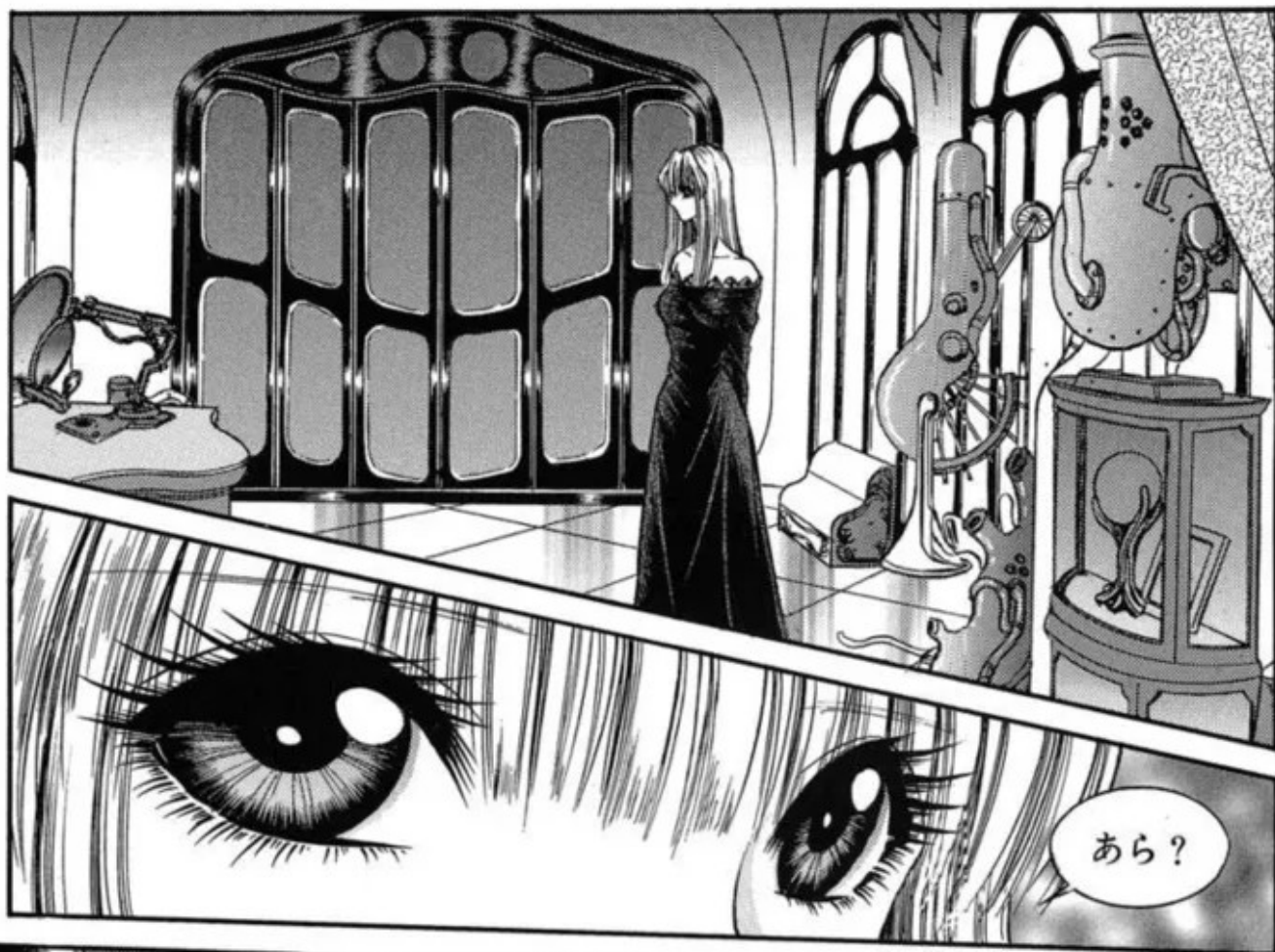
インキユバスの卵

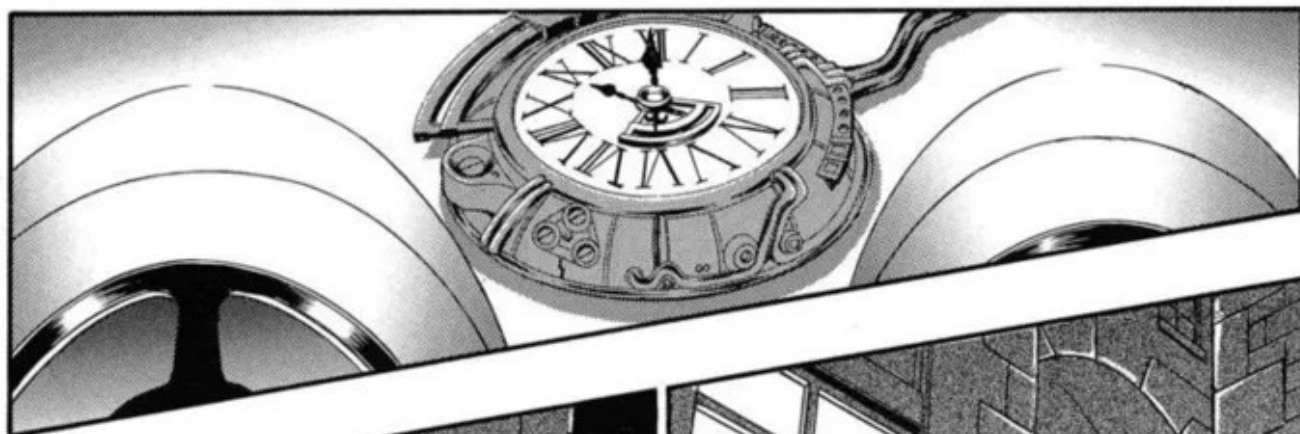














素晴らしい色の
淫魔の卵
だわ…

こんな美しい
のを見るのは
初めて……

あっ
あなたは!?

私…!?

淫魔の卵
……?

えっ?

いいえ
淫魔の卵が
あなたを
選んだの…

今日から
あなたの物に
なったのよ

でも…
それは私の
物では…

あ.....

ああっ!!

さあ...
足を広げて

あっ

あっ...





わ 私…
夢を……



ハッ!!



そそんな
卵が……

きっと
どこかに
転がってる
はずだわ



あなた
誰？……

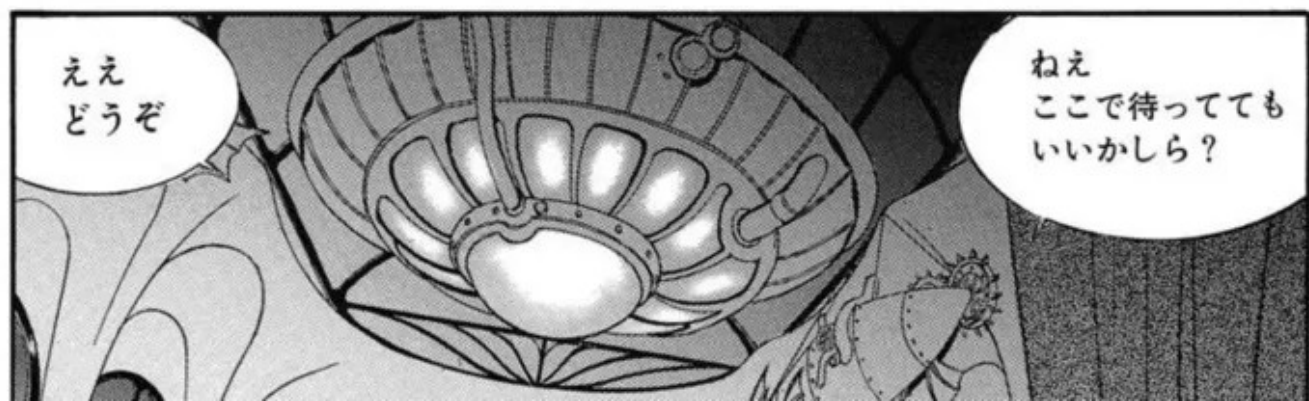
ああ…
パパが言ってた
新しい店員さんね



用事でお出掛けに
なりましたがけど…

ねえ
パパは？

そう…



ええ
どうぞ

ねえ
ここで待ってても
いいかしら？







今まで
味わった事もない
快感……

それは
淫魔の卵が
私の胎内で^{孵化}った事の
証しだったのでしょ



お
おねがい....

私を
姦して.....

ハア...

ハア...

ああっ
はやく...



私の肉体は
完全に淫魔に支配
されていたのです

あっ

ああっ

気がつくと
私は

お嬢さんの中へ
淫魔の精液を
そそぎ込んで
いました





私は怖くなって
店を逃げる様に
出たのです

でも…
どこに逃げても
同じこと……

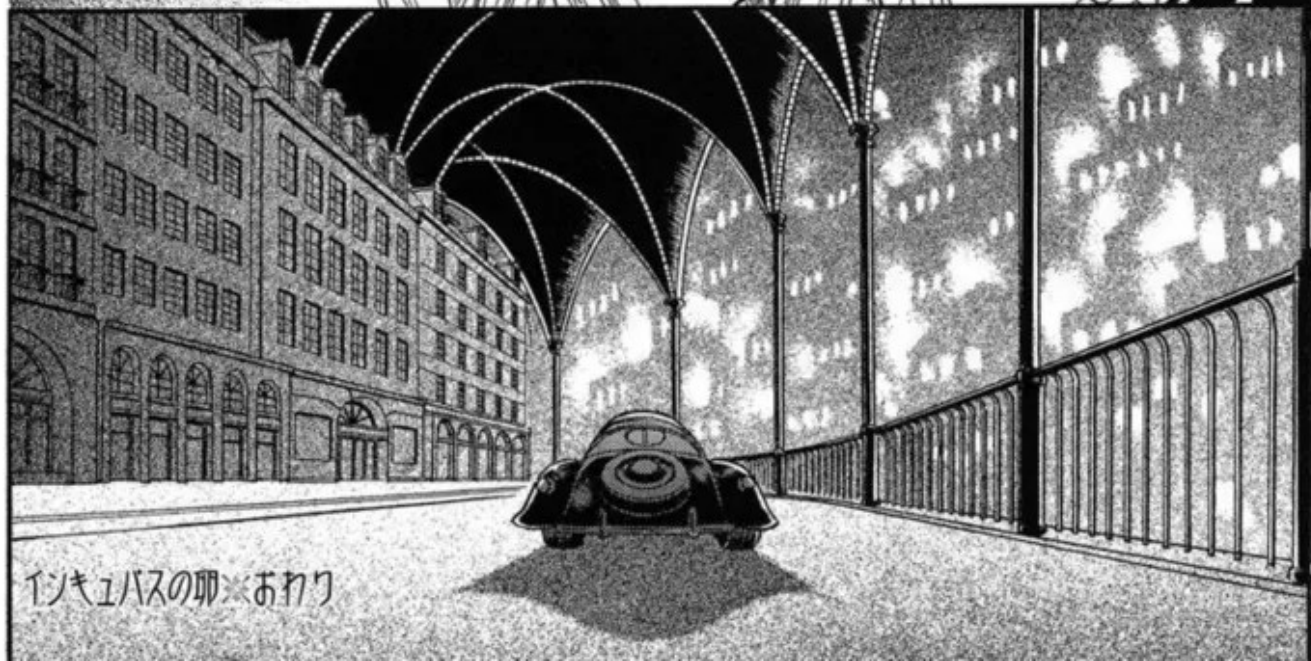


街の娼婦や
貴婦人までも…

まるで何かに
取り憑かれたように
私のところへ……



そんな私も
淫魔の欲望には
さからうことが
できない……



姫





今夜も
客なしが…

またおカミさんに
どやされちゃう。



こんなところに
暮らしているから
だろうか。



見上げれば
いつも上の街は
キラキラきらめいて
見える。





可哀そうに
こんな所じゃ
寒かろう……



上へ上へとそびえる街
いつしかあそこは
夜光城と呼ばれる
ようになっていた。

あそこにはいったい
どんな人たちが
暮らしているのだろう
……



どうだね？
夜光城で働いて
みないか……



えっ!?

一度でいいから
私も……



さあ、
お入り…



ミヤビ様
新しい従者を
連れてまいり
ました…





なんて綺麗な女
なんだろう…
まるで女神様みたい



はい……



今日からミヤビ様の
御付きとして
世話をしてさし上げ
るんだよ。



私……
レミです…



どうぞよろしく
お願いします…



あの、私
光栄です。

ミヤビ様みたいな
綺麗な方のおそばで
働けるなんて…



あなたは
誤解している
……

私は
綺麗じゃない
のよ……

ミヤビ様？
……



御機嫌いかが？
ミヤビ……



お客様を
お連れしたよ
お通ししてくれ。

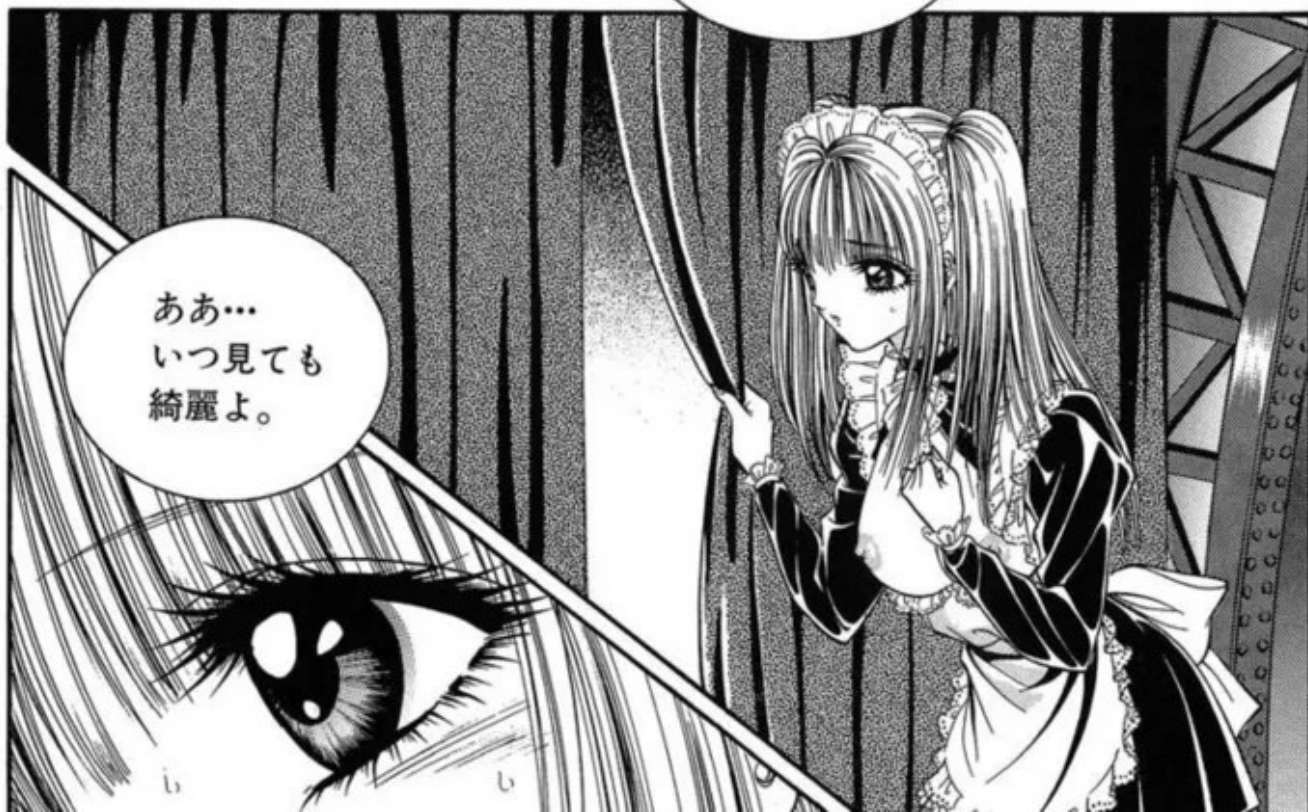
は、はい。





会いたかったわ
ミヤビ.....

さあ早く
脱いでちょうだい。



ああ...
いつ見ても
綺麗よ。



あ.....

ああ...

や、
やめて...



ほら、どんどん
大きくなる...

すごい
あなたのクリス
.....

あっ。

素敵よ
ミヤビ.....

ああっ…

ああん。

ミヤビ様は
いったい…





驚いたかね？

ミヤビ様は
クリトリスを
肥大させる肉体改造を
ほどこ
施されている。

ここ夜光城では
「姫」と呼ばれる
高級娼婦なのだよ。

「姫」は男の客とも
女の客とも
相手ができる

完璧な娼婦
なのだ…



いらない
.....



ミヤビ様
お茶が入り
ました...



も、申し訳
ありません。

あ、あの
私.....



お客様だ
さあたのんだよ。

はい.....

!!





あ...

ああん。

ああっ

ミヤビ...
おまえは
最高の女だ。





ミヤビ様…

わかったでしょ
私がどんな
人間なのか…

あなた
私のことを綺麗と
いつてくれたけど
……

本当は……



レミ……

そんなこと
ありません…

それでも
ミヤビ様は
綺麗な方です。

でも、自分が綺麗とか
汚ないとか
考えたことなんて……

私も…
下の方の街では
娼婦でした。

私はただ
ミヤビ様の
ことが…





私とミヤビ様は
今ひとつに
つながっている…

心も^{からだ}身体も





そこはいつも

.....

恋する人形

出典…ギリシャ神話

「ピグマリオン伝説」より



私の
おかしな物語を
お話ししよう

女学校を出てすぐ
おつとめを始めました
このお屋敷には…

メイドの先輩の
圭さんと雪子さん





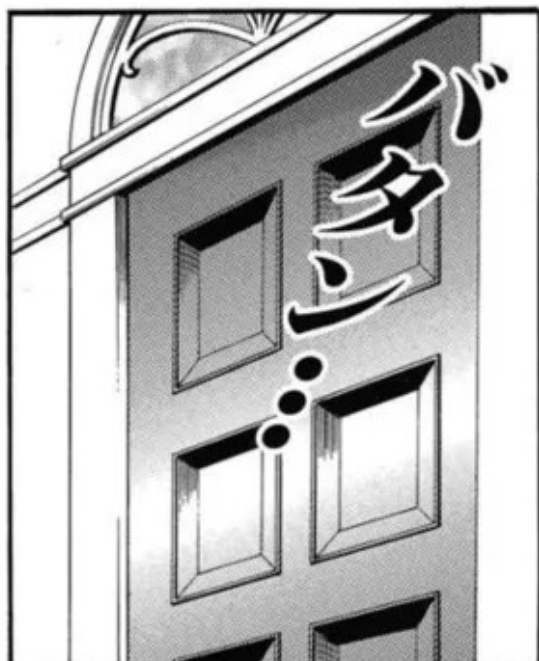
うら若き当主の
幽也ぼっちゃまが
いらつしやいます



あ…
あの…



幽也ぼっちゃま
珈琲をお持ち
しました





幽也ほつちやまは
数年前 お母様を
亡くしてからと
いうもの
外出もせず
このお屋敷に
こもりっぱなし
とか

お父上が
遠い異国でお仕事を
なさっている今
このお屋敷の中で
ほつちやまは
私たちメイドと
4人きりの生活



それは
……



でも 誰も
幽也ほつちやまの
沈んだ心を
ときほぐすことが
できないのです

ほつちやまに唯一
心が安らぐ時が
あるとしたら



あの素晴らしい
少女人形との
逢瀬のときだけ
.....

お父様の
心づかいは
果たして
正しかったのか
どうか...



綾花
.....



僕の
綾花…

1人残された
幽也ほつちやまが
寂しくないようにと
精密に人の形を模して
作らせた少女人形

彼女が
かわいそうな
幽也ほつちやまの
唯一の話し相手
……



綾花…
皆は僕を異常な
ものと笑うだろうが
僕は本当に君を
愛している

そして
想い人…

綾花…
僕は時おり
思うのだ

神様…
なんと残酷な
ことでしょうか

もしも君の
その美しい唇が
ほんの少し開いて
声を出したら

その声は
どのような
愛らしい声で
あろうと…

私はこの
幽也ほつちやまと
少女人形との
崇高なひと時の
末席に入ること
も許されないのです



私は仕方なしに
私の魂を少女人形の
冷たい身体の中
に置くことを想像します

私は今
少女人形……

そして……

幽也ほつちやまの
指が私の唇に
……………

綾花
……

綾花
返事をして
おくれ

はい……





あの人形に
なりたい…

人形になつて
幽也ほつちやまに
愛されたい…







まあっ！
本当に
そっくり！！

どう？



いいこと
麻里！

決して声を
出してはダメよ
あなたは今から
人形なんだから



お人形が
人間に変わったら
ぼっちゃま何て
言うかしら！！

あはは
どきどき
するわ！！



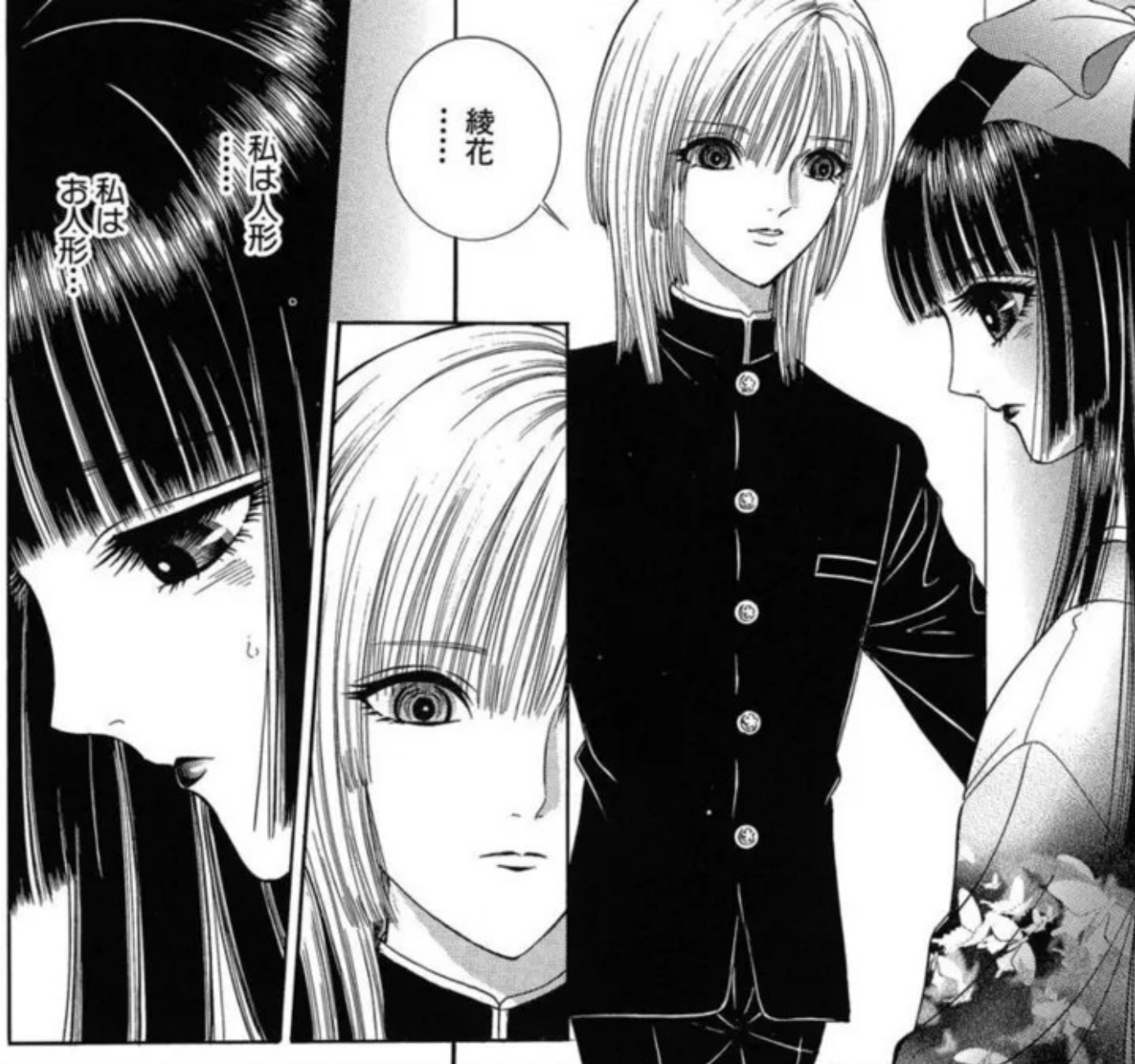
ああ
どうして

心臓の鼓動だけで
もうお人形ではないと
わかってしまいそう…

カチヤ

来たっ!!

キイツ





どうしたことだ
願いが叶って
綾花は人になった

だが
その所作は
人形のままだ

そうして
本当に動きだして
くれるのだろうか？

ああ..
ほっちやま
.....

綾花
.....

もっと
強く願えば
やがてその
美しい唇から
声を聞かせて
くれるのか？



綾花...

何て柔らかな
肌だろう

あめっ





本当に
人間の女の子に
なったんだね

蜜がこんなに
溢れて…

綾花…

僕の
恋人…

幽也ぼつちやまが
私の中に…



声を出さぬよう
……
動かぬよう
……

懸命に耐える
この不思議な
状況……

でも私は
幸せで
あります……









幽也ぼつちやまと
こんなことに
なれたのは
嬉しいはずなのに

いくら
声をあげて
お応えしたくても
それは叶わぬこと

今の私は
綾花人形として
愛されているのです

こんなことが
いつまで
続くのでしょうか
.....

つまんない
……

え？

だって
一生懸命
作り上げた
新しいお人形に
幽也ぼっちゃまは
ぞっこんで……

私たち何にも
関係ないじゃない
覗き見してるだけ
だし

それも
そうね

だったら
バラしちや
おうか!?

えっ!?

そろそろ
別の展開を
考えないとね
……







ええっ!!



ゆっ…
幽也ぼっちゃま!!

知ってたよ
麻里…



最初は
あまりにも綾花に
生き写しだったので
一瞬 本当に人間に
なったのではと
思ったけれど

そのうち
気が付いたのだ
僕が日々会っていた
女性…
麻里なのだと



ああ…

しかしいつ
どこでそれを
告げたらいいのか
わからなかった



そ…それでは
もうとつくに
ご存じで私を
……

僕が日々
話しかけていたのは
綾花人形ただ
1人で

なのに今夜
そのきっかけを
お前たちが
作ってくれた

感謝しても
し足りないとは
このことだ

その他のものに
心を割って
そんな重要なことを
切り出すなど
とても…

そっ…
そんなっ
お安い御用
ですわ

幽也ぼっちゃまの
為であれば…

ありがとう…
僕はこれから
麻里を人間として
愛していると思う

血の通った
少女として

幽也…
ぼっちゃま
……

よ…
よかった
ですわね…

本当に
オホ…
ホホホ…

そして
数力月後…

このお屋敷で
私と幽也様は
慎ましやかに
結婚の儀を
執り行いました



私の物語は
これでおしまいで
ございます

グリム童話「ナイフを持った手」より

エミリーと奇妙な腕





あなたに
不思議な話を
聞かせよう

エミリーという娘と
奇妙な腕にまつわる
物語を……



エミリーは
とある富豪の屋敷に
引き取られることになった
母親が流行病で
亡くなったからだ



しかしエミリーに
待っていたのは
新しい家族からの
歓迎などではなかった



もともとおまえは
この場所で私たちと
寝食を共にする
資格などないのです



なぜならばおまえは
主人がたわむれに
卑しい女に産ませた
妾腹の子なのですから

けれど主人の
寛大な遺志によって
ここに来ることを
許されたのです

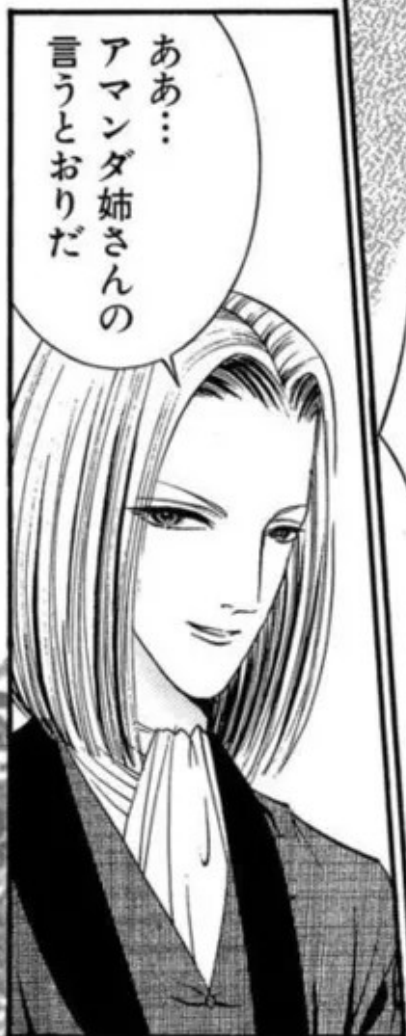
亡くなった主人に
感謝しながら
暮らすことですね

私はイヤよ!!
こんな子がいきなり
家族の一員だなんて
そんなの絶対
認めないわ!!

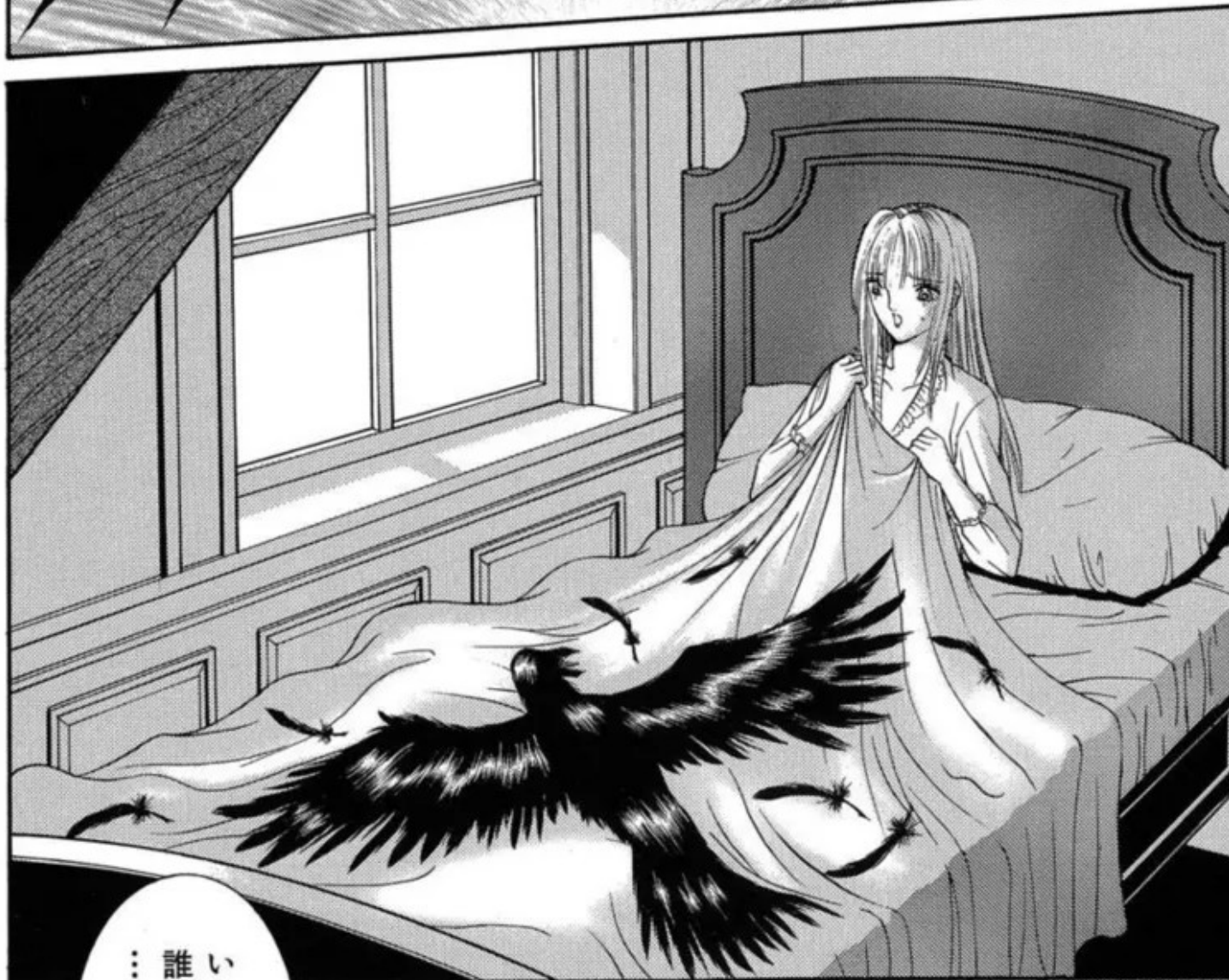
あなたも
そう思うでしょ
アーノルド

ああ…
アマンダ姉さんの
言うとおりだ

行きましょう
アーノルド

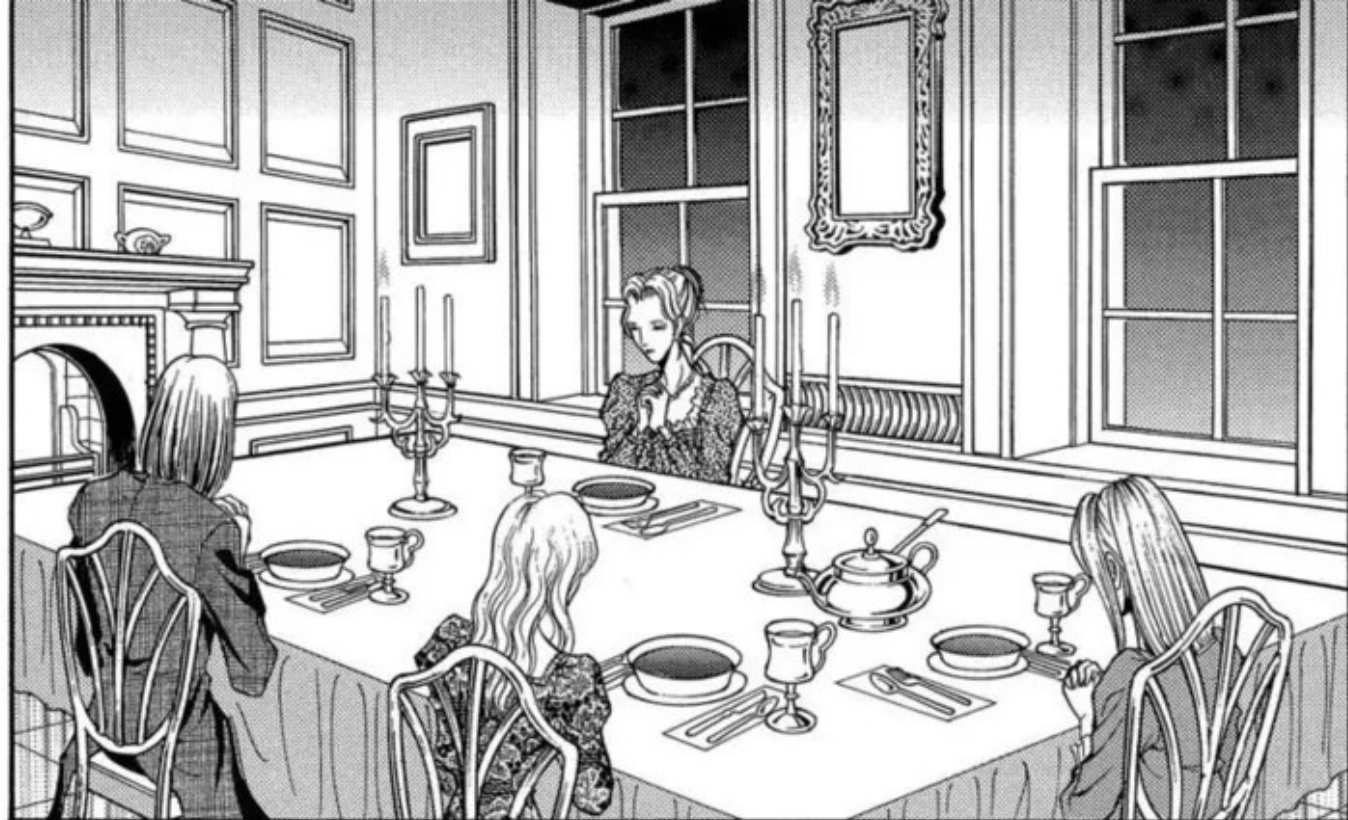


キヤアアアッ



い... いたい
誰がこんな
.....





やがてエミリーは
このふたりの姉弟が
思った以上に残酷な
心の持ち主だと知った

ああ…
アーノルド

姉さん
……



!!





お……
お許しを
アマンダさま
……



ダメよ ハンス
罰としておまえは
今日一日中
そこでカラスを
追いはらうのよ



かかしと
してね

ハハハ……



かわいそうに
ハンス……





今スグ
降ろして
あげるわ



うう…

しっかりして
ハンス…



ハンスの腕…
なんて太くて
遅いんだらう





やがて
エミリーとハンスは
互いに惹かれあい
愛しあうように
なっていた





あなたと
ふたりで暮らせたら
どんなに素敵な
ことでしょう…



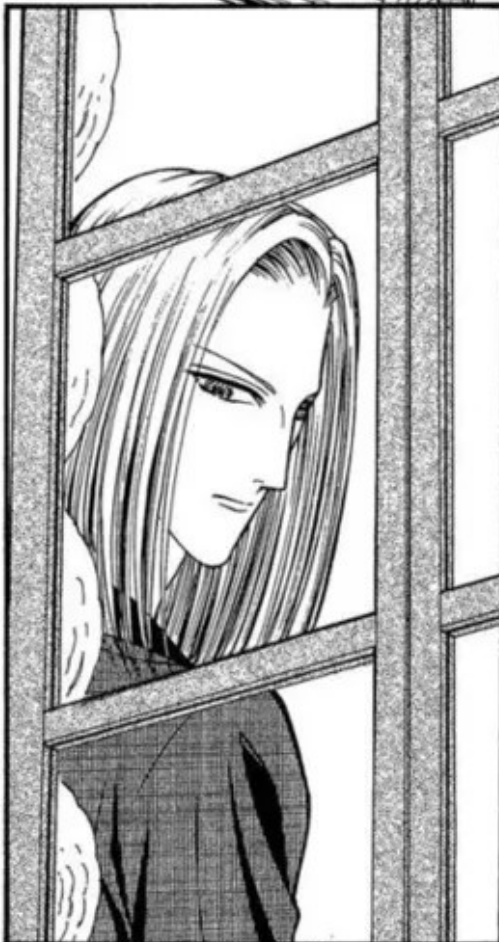
あなたと
一緒にいる時が
一番幸せ…

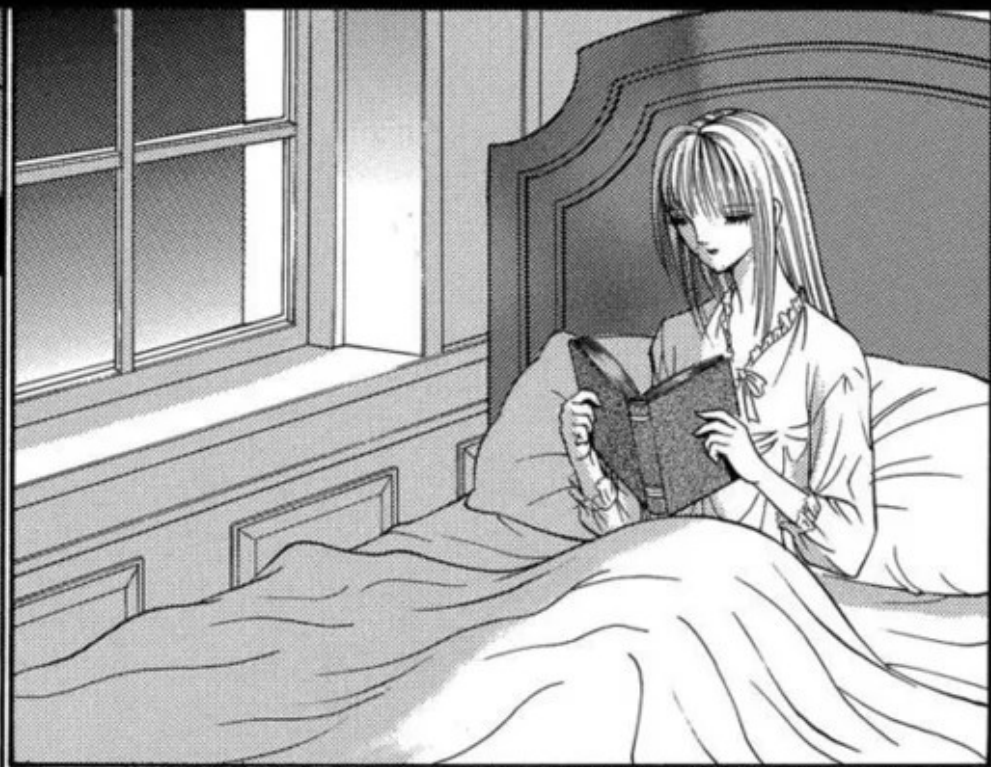
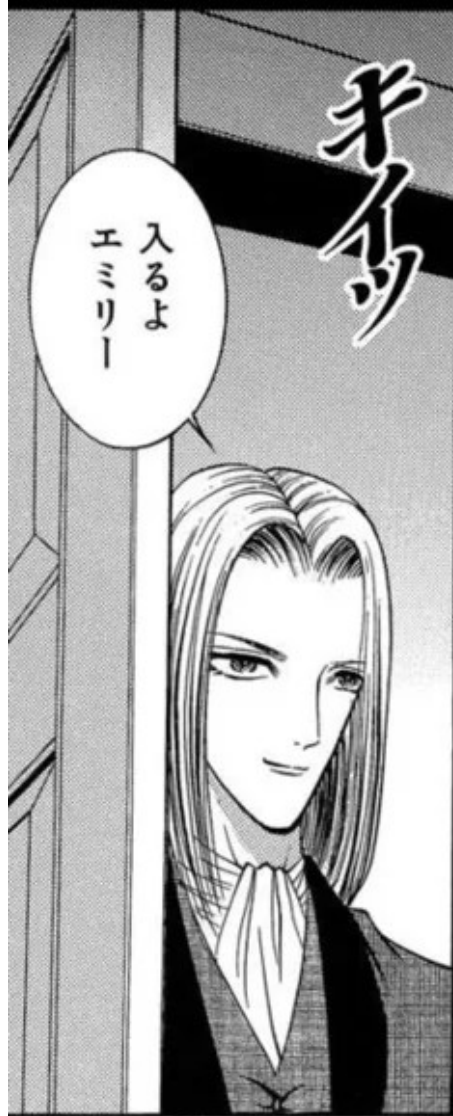
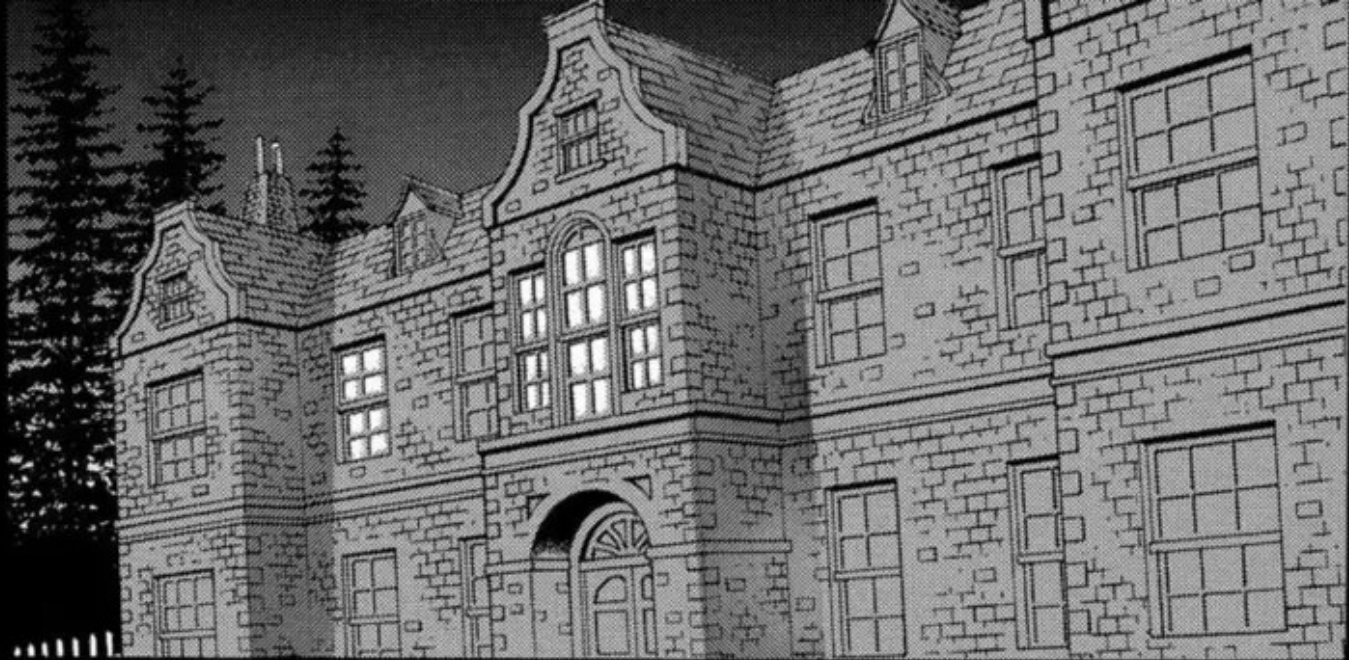


いつかあなたを
あの屋敷から
連れ出し
きつと幸せに
してみせます…



ああ
ハンス…





何をして
いたんだ？

べ…別に

ただお話を
していた
だけです…

ウソをつくな
知ってるんだぞ
俺は…

おまえとハンスが
できてるってこと
なんか…

さすがは
卑しい妾の血を
ひいた娘だ

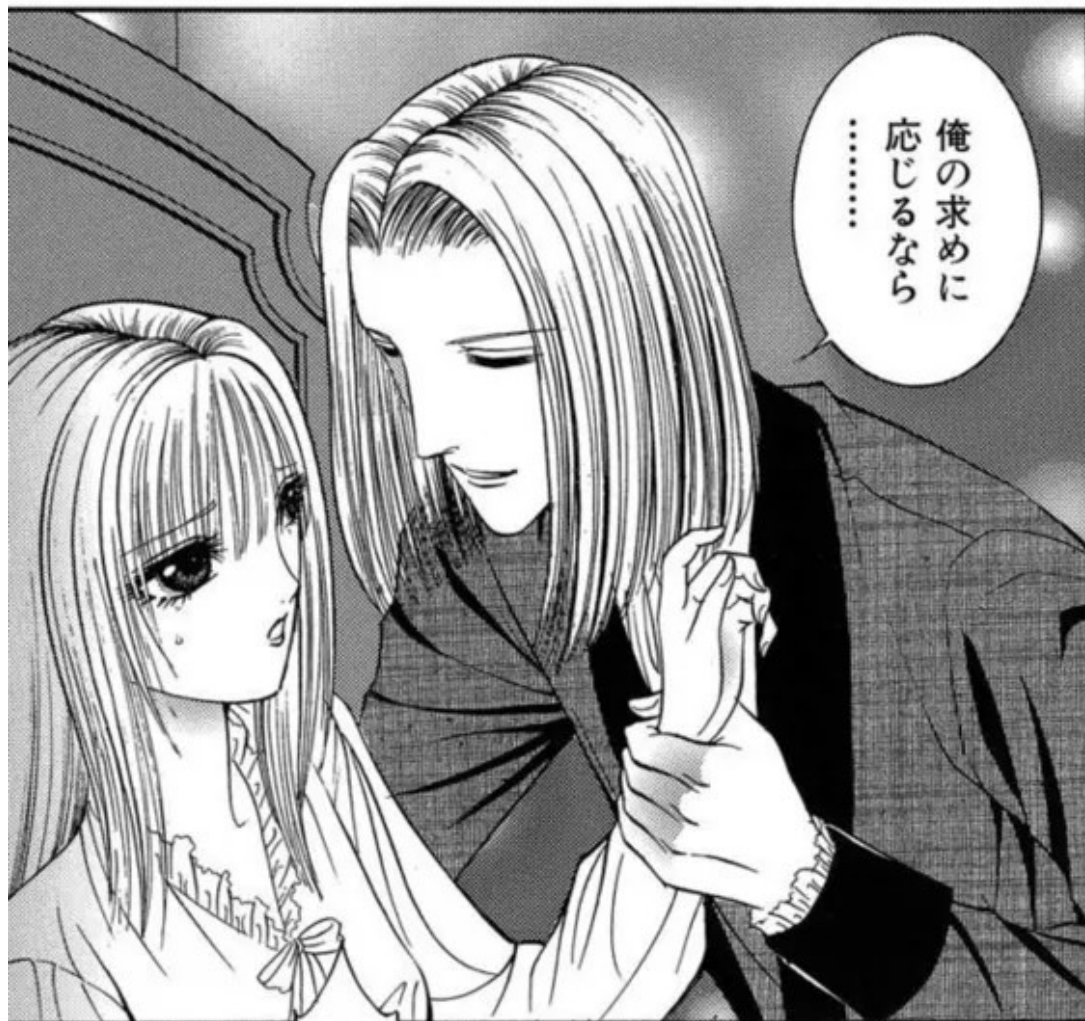
男なら誰とでも
寝るんだな
あんな薄汚い
男とでも…

こんなことを
母上が知ったら
どうなることか…

父上の遺志で
しかたなく側そばに
おいてやってるだけで
本当はおまえのことを
憎んでいるのだからな



ま…
おまえ次第では
黙っていてあげても
いいのだが



俺の求めに
応じるなら
……



あっ…



や…
やめて!!



ハンスが
どうなっても
いいのか？



ハンスが
.....



使用人の分際で
家族の者に
手を出したんだ
ただでは済まない
だろう...



ハンスのことが
本当に好きならば
俺の言うとおりに
するんだ...

あつ

ああつ

許して
ハンス…

私の心は
あなたのもの

だから…
だからお願い
私を許して!!



アーノルドが
エミリーの
部屋から？



カチヤ

!!



どういふこと!!?
これは……

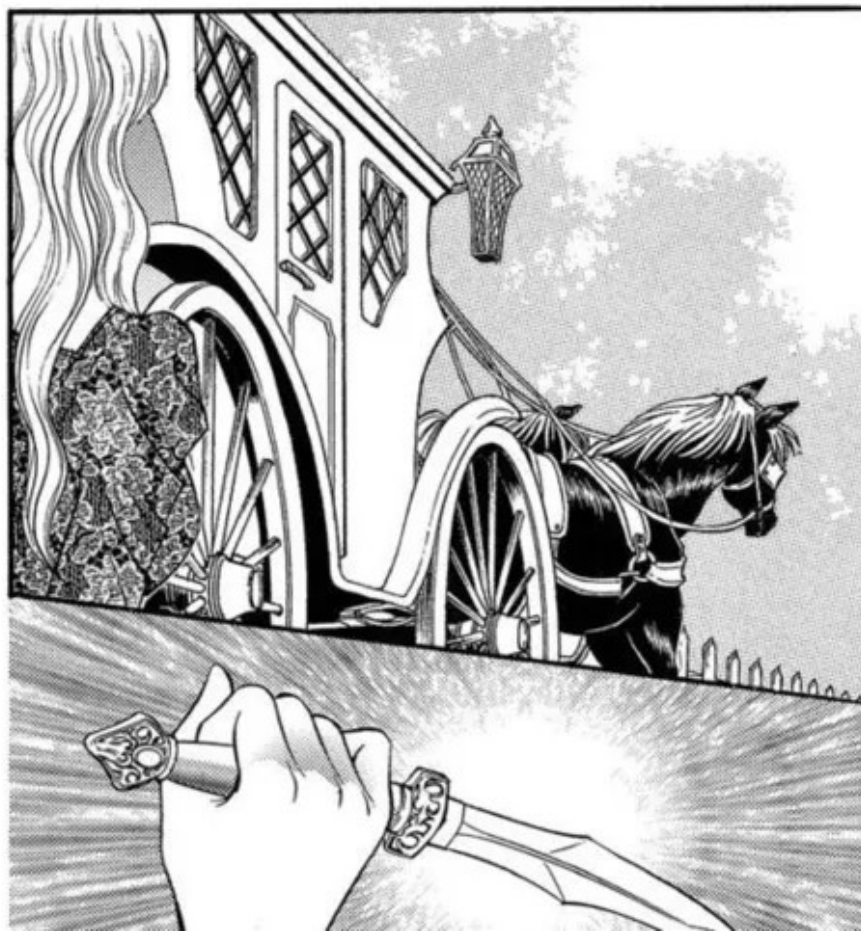
そうだわ…きつと
エミリーが
アーノルドを
誘惑したに
違いないわ!!



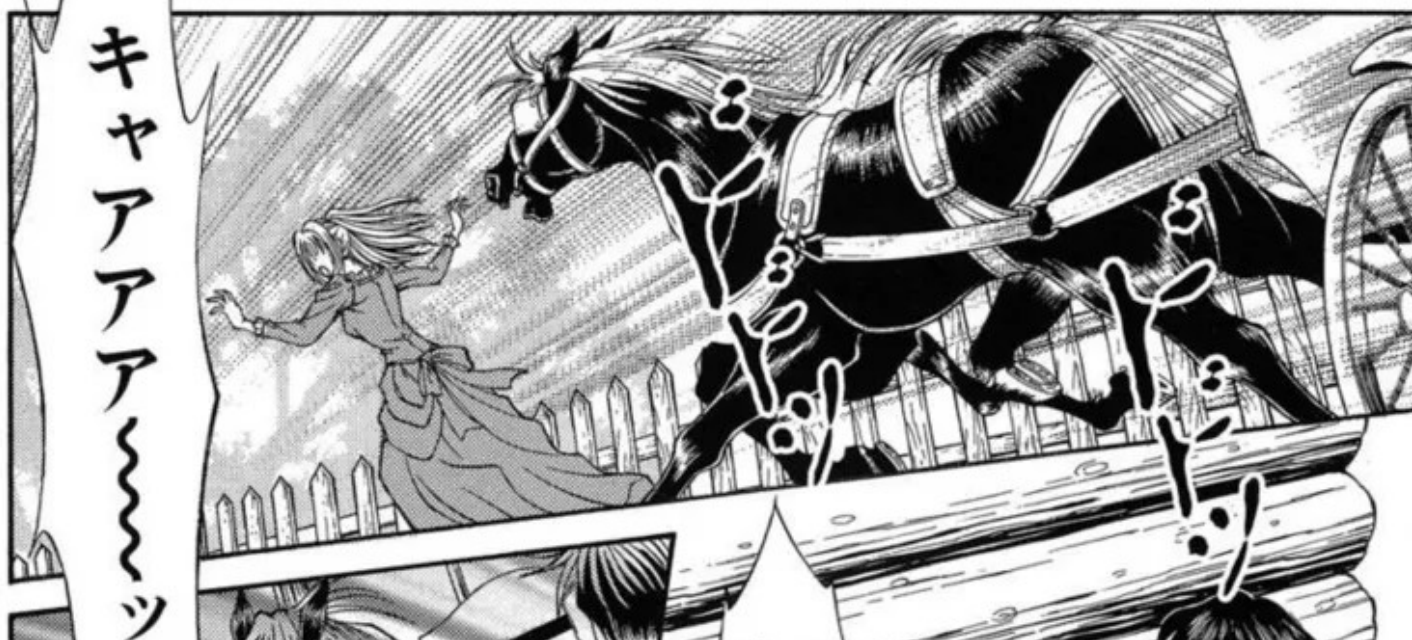
許せない!!

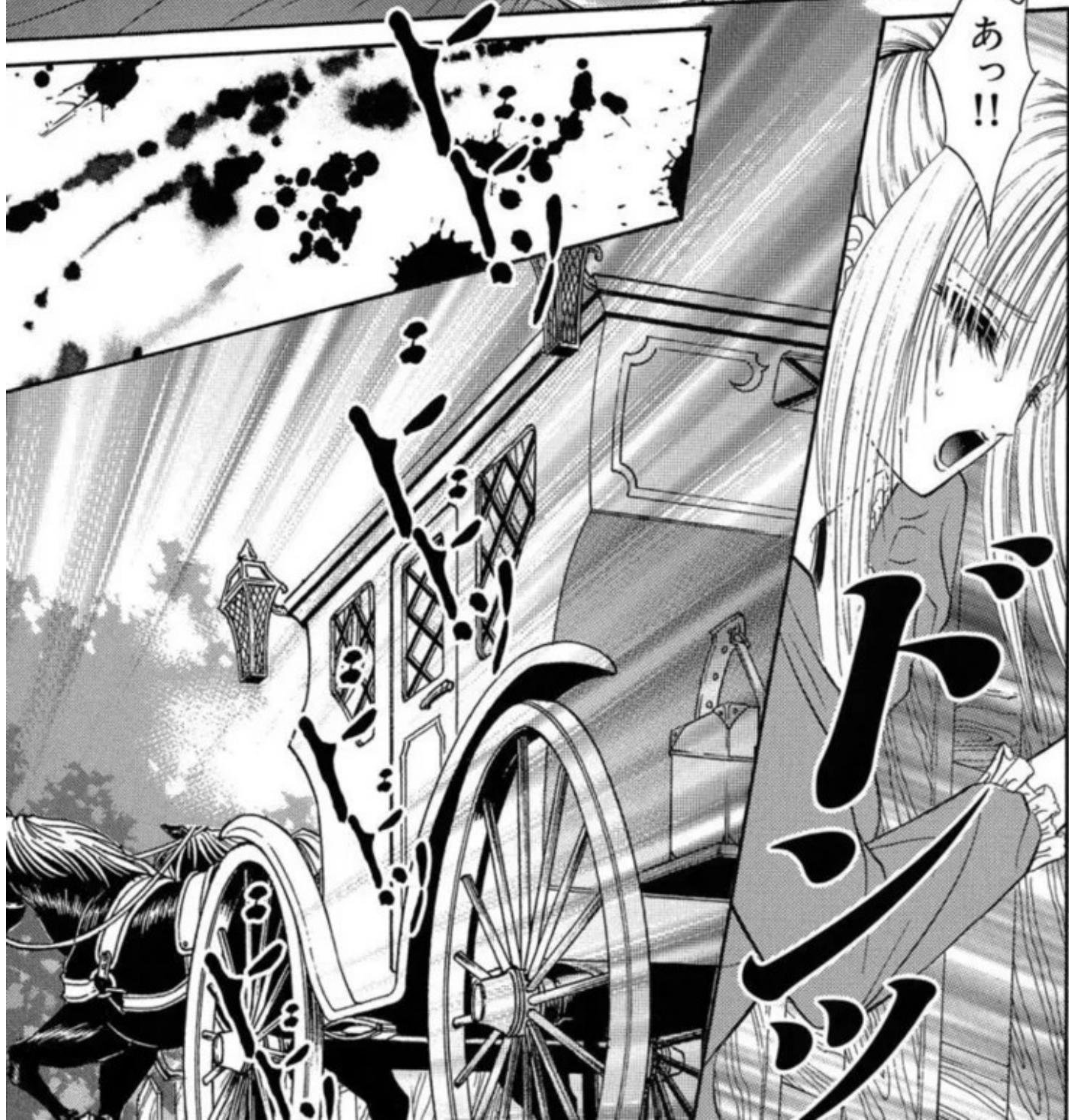
私の大事な
アーノルドを
……

ハンスは今
どうしてる
かしら…











ハ……
ハンス!!

ハンス——ッ!!

主よ……
若き魂を天国へと
導きたまえ……

かわいそうになあ
こんな事故で
死んじゃうなんて

HANS
EVOL



そういえば
馬車に
巻き込まれた時に
片腕が切断された
そうだね…

ああ…その腕だけ
どうしても
見つからない
そうだよ…



ごめんなさい
ハンス…

私のために
こんなことに
…………



ハンスと
過ごした
小屋…

だけど
あの人は
もういない…



ハンスとの
思い出に浸って
いたか？

だがあいつは
もう死んだんだ…
早く忘れるんだな

オレがその
手助けをして
やってもいい











あなた何か
知ってるんじゃないの？



何か隠していると
ためにならない
わよ……



知らないわ
私……



ああ
神さま……

どうか
私とハンスの
罪をお許し
ください……



グ
グ
グ



ハンス
.....

あなたと私は
永遠に一緒
.....

たとえ
地獄に落ちても
.....

大変だあ〜っ!!
アーノルドさまの
死体があ〜っ!!

アーノルド!!
私のアーノルド!!

誰がっ!!
誰がこんな
酷いことを!!

アーノルド
~~~~ッ!!





ごまかしても  
ムダよ!!

ああっ

ザンザンザンザン

ガッ

ベシッ

!!!



ああっ!!

や...やめてっ  
ハンス!!

ギンギン

ぐんぐん...

ギン

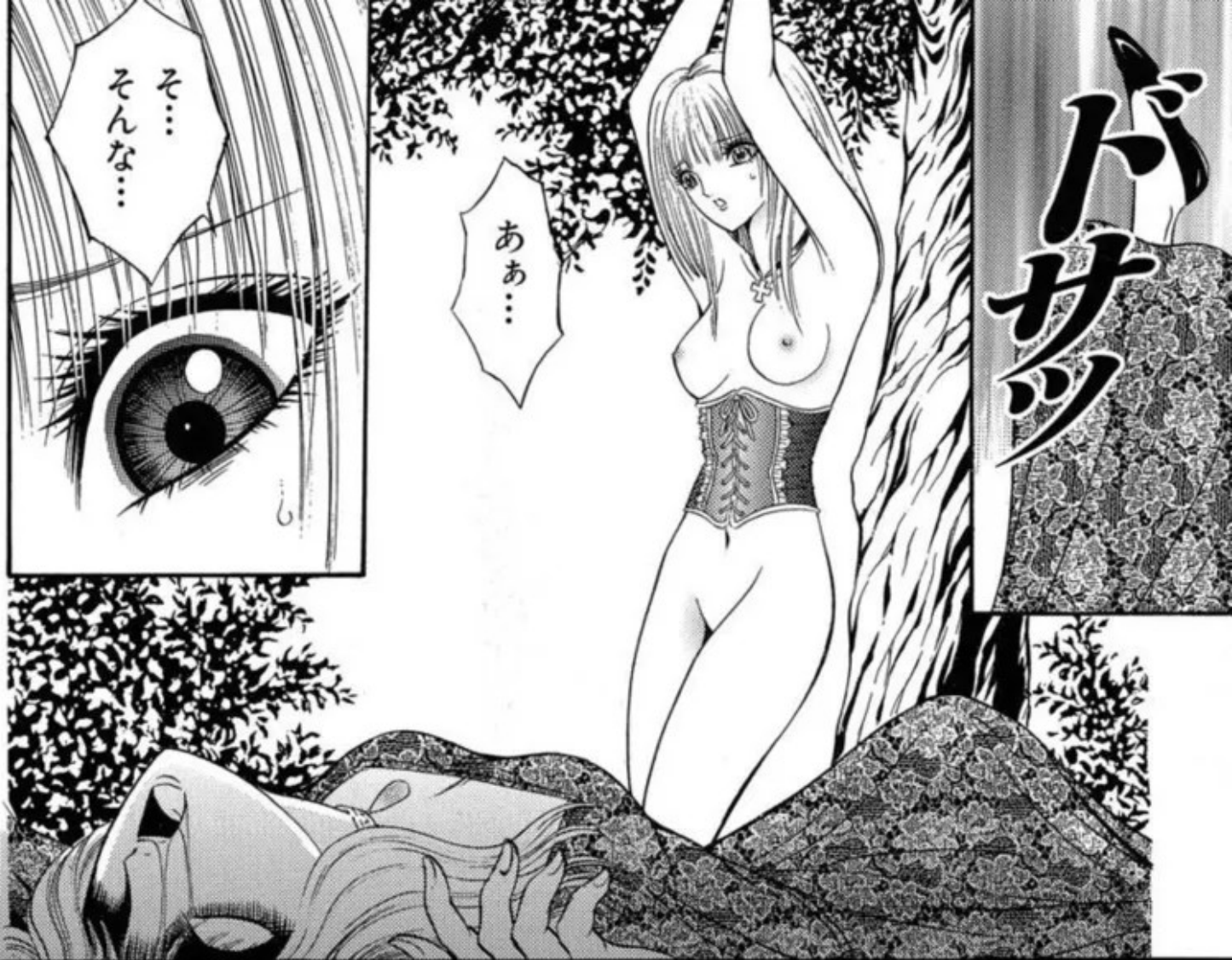
ギンギン



バサッ

ああ...

そ...  
そんな...



エミリー!!

エミリー  
ここを  
開けなさい!!

エミリー!!







どうしたら  
いいの…  
ハンスがまた  
人殺しを…



神さま…  
どうかハンスを  
止めてください



!!

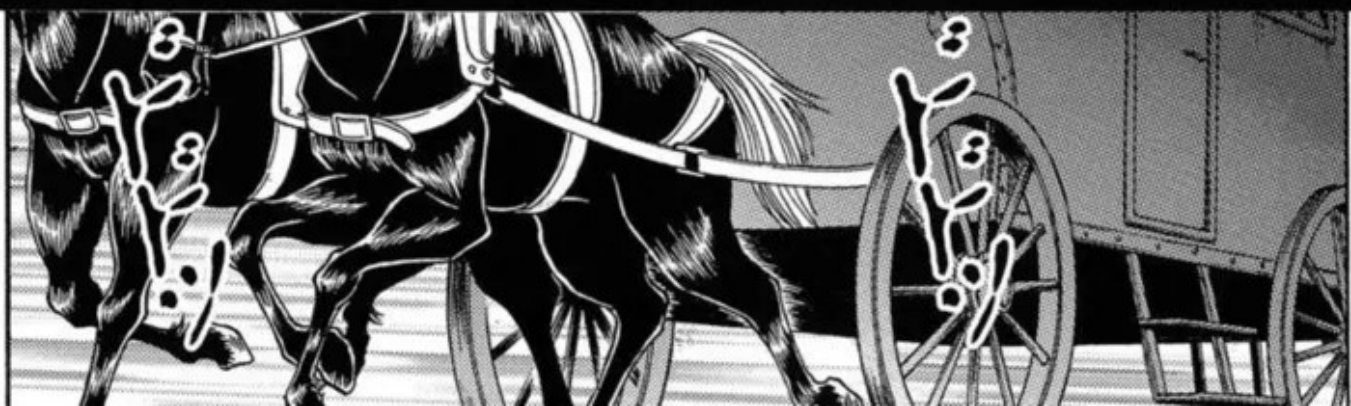
ギアアアアッ

まさか…

ガチャ...

ああっ!!

ハ...ハンス

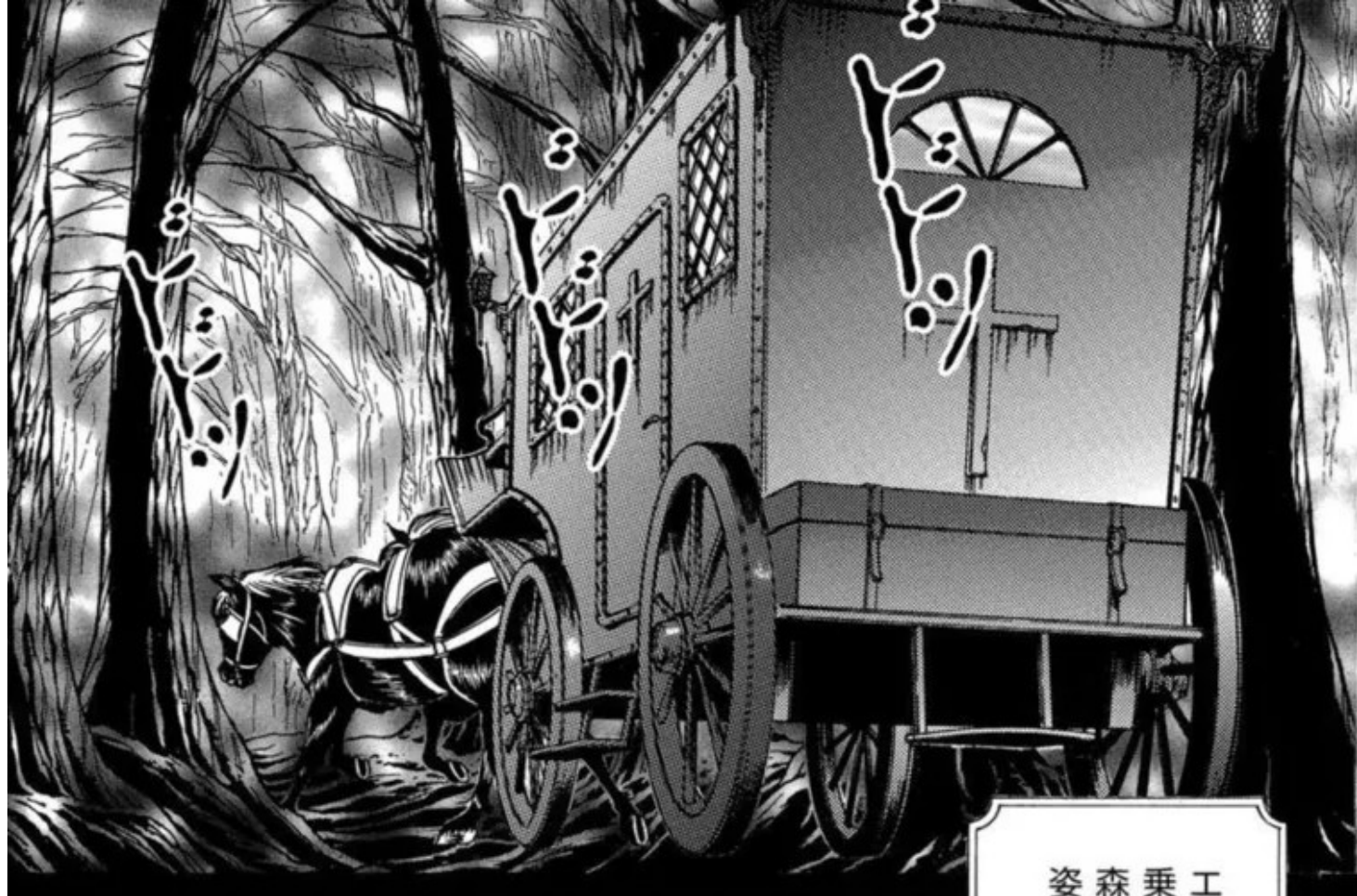












エミリーを  
乗せた馬車は  
森の奥へ奥へと  
姿を消した



その行方は  
誰にもわからない

ただひとつ  
言えることは

エミリーと  
ハンスの腕は  
生涯 離れることが  
なかったということ

これが  
エミリーと  
奇妙な腕の  
物語である…



SADE

# 薔薇の館

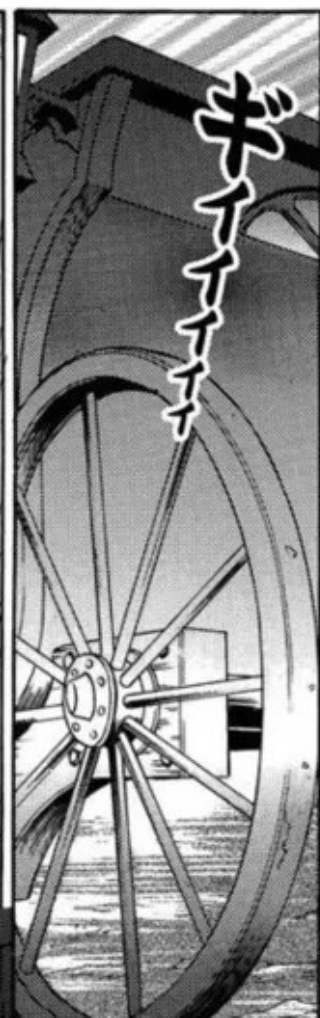
マルキ・ド・サド作「森の中の宿」より



ACT・I









この深い森を  
抜けるには  
ゆうに3日は  
かかるでしょう

あなたのような  
かよわいお嬢さんが  
一人で行くのは  
危なくってよ

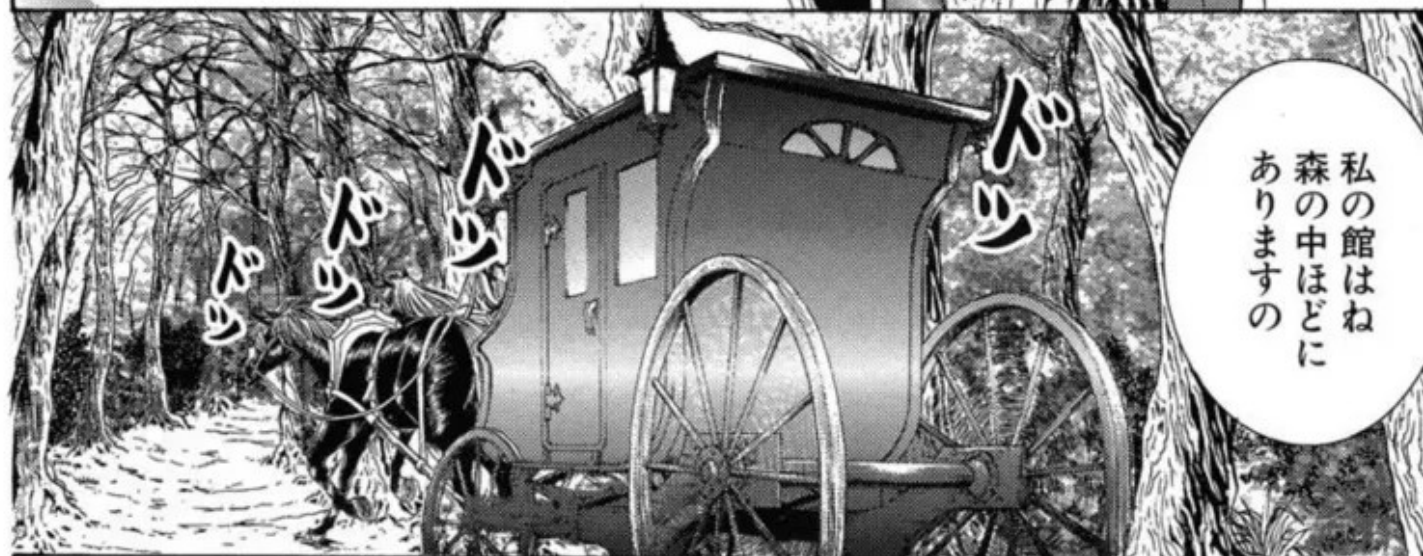


もしよろしければ  
今夜は私の館に  
お泊まりなさい



はい…

あの…  
一番近くの街まで  
行こうと思ひまして…



私の館はね  
森の中ほどに  
ありますの



ご親切に  
ありがとうございます…

じつは  
森に来る前に  
2日間も歩きづめ  
だったものですから





なにか……  
深い事情が  
おありのようね  
……



じつは……

2日前まで 私は  
とある お屋敷で  
メイドをして  
おりました……



ある日 私は  
侯爵に呼び出され  
恐ろしい 謀<sup>はか</sup>りごとを  
持ちかけられたのです



そのお屋敷で  
未亡人の  
伯爵夫人と

そのご子息の  
侯爵にお仕え  
していたのです



そして私は  
母親を毒殺する  
役目をいつけ  
られたのです



それは  
財産をにぎっている  
母親を亡きものにし  
遺産を得ると  
いうものでした



私がそれを  
拒みますと

侯爵は私に  
むごい体罰を  
くわえるよう  
になったのです



私は伯爵夫人に  
普段からいろいろ  
良くしていただいた  
ご恩があります

どうしてそんな  
恐ろしいことが  
できるでしょう…



ですが夫人が  
殺されるのは  
もはや時間の  
問題だと感じ

私は裁判所に  
このことを  
訴えるため  
お屋敷をあとに  
したのです…

きっと侯爵は  
この謀<sup>はか</sup>りごとが  
外にもれるのを恐れ  
必死になって私を  
探すでしょう

ですから  
身を隠しやすい  
森の中を選んで  
しだいなのです

まあ…  
ひどい苦勞を  
なされたのね

でしたら あなたは  
しばらく私の館で  
身をひそめて  
いたほうがいいわ

裁判所へは  
私が代わりに行って  
さしあげてよ

ああ  
奥様!!

私なんと  
お礼したら  
いいのか



あなたのような  
純粹で美德の心の  
持ち主を  
放っておくわけには  
まいりませんもの…



ステキなお庭…  
薔薇の花が  
咲き乱れて

薔薇はね  
世界一美しく  
高貴な花だと  
思っていますの





赤い薔薇は  
とくにね…



さあ  
お入りになって…



ギィィィィィ



お帰りなさいませ  
ドロティア様



さあ  
これでも飲んで  
くつろいで  
ちょうだいね

なんて  
おいしいワイン  
でしょう



あなたが  
この館にいる  
あいだは

私と同じように  
この二人のメイドが  
あなたに仕える  
ことになるわ



ガチャ...



そんな  
もったいない  
ことです...





この娘は  
ソフィー

森で見つけ  
ましたのよ



どうかしら？  
綺麗な娘だと  
思いませんか？  
デステル兄様…



ああ…  
確かにね



ドロティア  
どなたかな  
その女性は



この優しいげで  
可愛い顔……

お……  
奥様？

きっと  
からだ  
肉体の方も  
素敵だわ



この娘ほど  
私たちの仕事に  
うってつけの娘は  
いないでしょう

え？



ああ  
たまらないね  
……

スグにでも  
試してみたい  
くらいだよ





私が先ですわ  
ウフフフフ…

フフフ…  
まったくおまえの  
女好きにも  
困ったものだ



あ…あの  
私やっぱり  
失礼します…

だめよ  
ソフィー

残念だけど  
おまえはもう  
館から  
出られないのよ



ど…  
どういう  
ことですか？



じつはね……  
先ほどおまえが  
話してくれた  
伯爵夫人だけど

2日前に  
殺されたのだそうよ



ええっ!!

きのう  
裁判所から  
手配書が  
届けられてね

なんでも  
メイドが女主人を  
殺して逃げたのだとか  
……

そ…そんな  
ウソです!!

侯爵は私に  
濡れ衣を  
着せようと…



ほう…  
ではおまえは  
その侯爵が母親を  
殺したといたい  
わけだな



どうか…

どうか  
信じてください

私たちはね  
裁判所におまえを  
つき出そうなんて  
思っただけですよ

もっとも  
おまえしだい  
ですけどね

私しだい？  
……

あ……

な…  
なんなの  
この感覚…



ウフフフ  
効いてきた  
ようね…

先ほどあなたが飲んだ  
ワインには

薔薇から作った  
媚薬が入っていたのよ



そ…  
そんな……



さあ  
いらつしやいな  
ソフィー

まずは おフロで  
からだ  
肉体を洗って  
あげましょう

そこで  
おまえの からだ 肉体の  
あらゆる場所を  
じっくりと見せて  
もらいますわ





ソフィー  
おまえは  
すごく綺麗だわ…



おまえを  
見ていると私  
ウツトリして  
しまうの…



あなたは…  
私を騙したの  
ですね…



ああ…  
やめてください



私はね…  
気に入った女を  
手に入れるためには  
なんだってするのよ



ああ…

ほくら  
こんなに蜜を  
あふれさせて  
……

や…  
やめて



だけど  
気を落とすことなど  
なくってよ

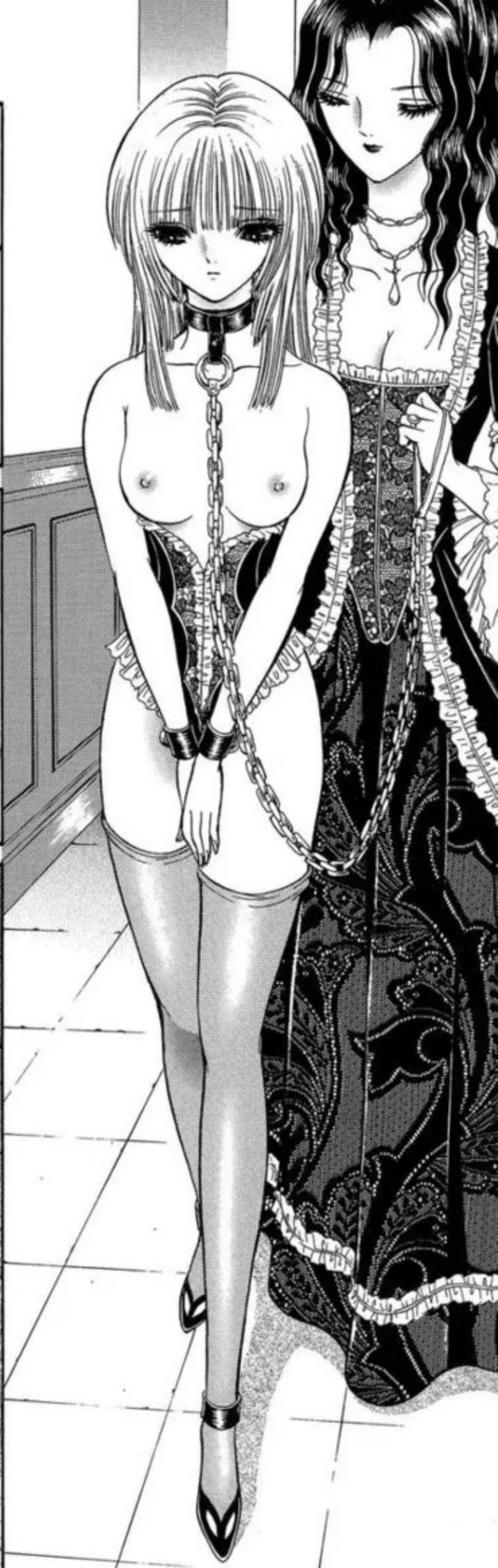
おまえも  
この館の生活に  
スグに慣れるで  
しょうからね

ああ…

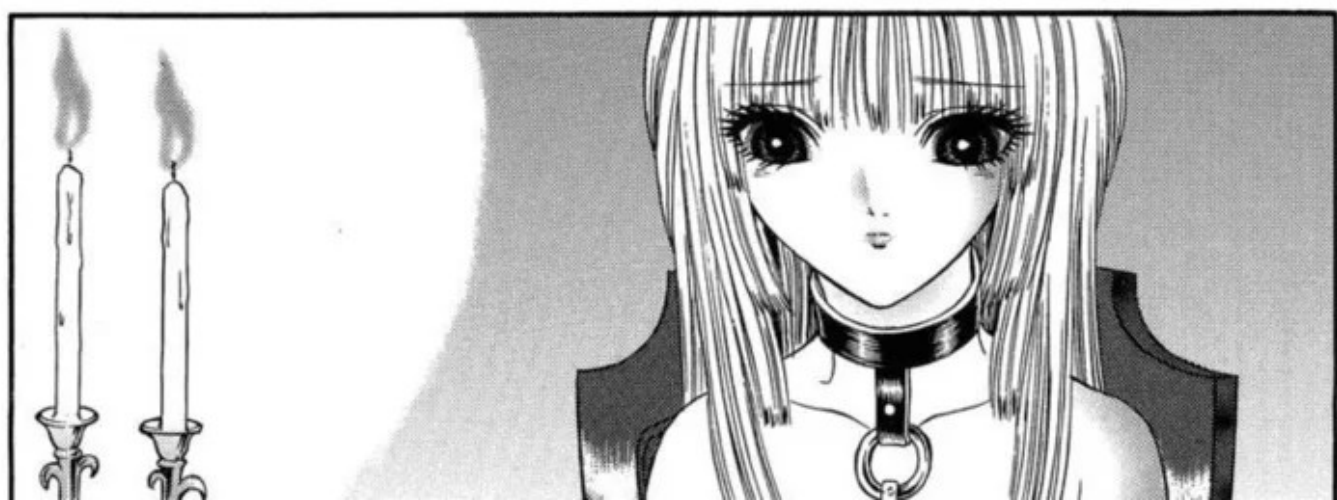
それにきつと  
何か月も  
経つうちに

この館から  
逃げたいなんて  
思わなくなる  
はずだわ

おまえはここで  
本当の快楽を  
知ることになるのだから…









ソフィー…  
さっそくおまえの  
出番がきたようだな



お客様が  
お見えに  
なりました

そうか  
……



この館はね  
じつは  
宿屋でもあってね

森の中をたどる  
旅行者にとって  
この館は とても  
都合のいい場所  
にあるわけだ



出番？  
……



だが俺たちが  
宿屋なんかを  
やっているのは  
なんにも商売のため  
なんかじゃない…

財産なら  
どんな贅沢に  
ふけようとも  
困らないほど  
持っている



そ…  
そんな!!

この館に  
足を踏み入れた  
旅人の命を奪って  
楽しんでゐるのさ  
ゲームのようにね

そう…  
これはいわば  
貴族の道楽と  
いうやつだね

わ…私には  
人殺しなんて  
ムリです!!

なにもおまえに  
人殺しになれと  
いつてるんじや  
ないんですよ

むしろ  
おまえには  
気の毒な客を  
救ってやって  
ほしいのです

救う!?



そうよ…  
私たちが命を  
狙っていることを  
客に知らせて  
もらいたいのよ



もし おまえが  
一人でも客を  
逃がすことが  
できたなら

その時は  
おまえを自由  
にしてやろう

俺たちは  
決しておまえを  
追ったりはしない



どうだね？  
ソフィー  
これがおまえの  
役目なんだよ

さて…  
救いの天使と  
なればいいが  
フフフフ…



SADE  
薔薇の館  
ACT・II



ハアッ

ハアッ

足に力が  
入らない  
……

ガクッ

うっ……

……あ

どうしたの  
かしら？  
ソフィー

ウフフ…  
まだ少し  
媚薬が効いて  
いるようね





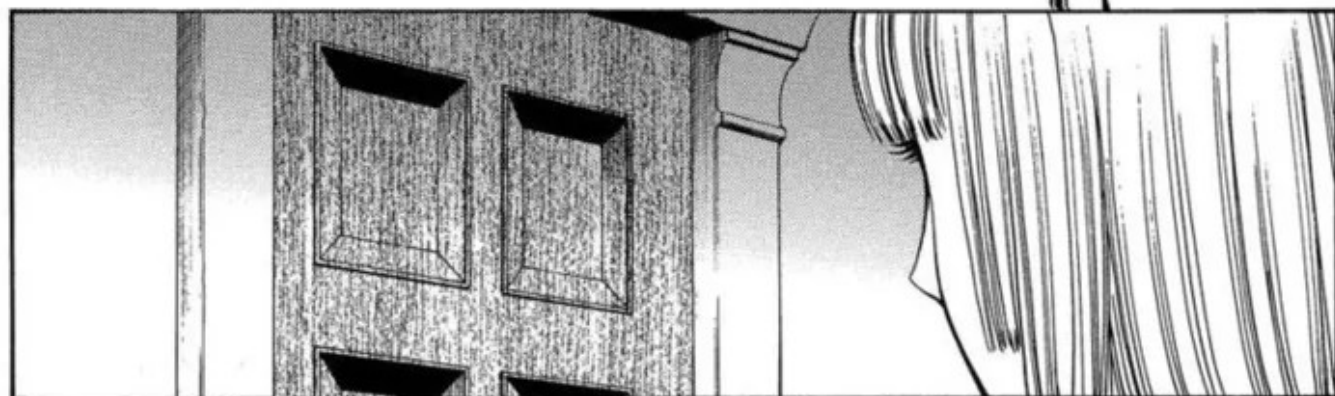
ほおら…  
まだこんなに  
蜜がいっぱい

ああ…

や…やめて  
ください…

きっと  
客もよろこんで  
くれるわ

ヌ…





カチャ

ほうく  
こいつは  
なかなかの  
上玉じゃないか

さあ  
つつ立ってないで  
こっちへ来い!!

グッ

さっきここのご主人から聞いたが

おまえはどんな淫らなことでもしてくれるそうじゃないか

ち…ちがいます  
私はそんな…

こんな刺激的な姿で現れておいてうぶなフリもないだろう

や…やめてください!!

私は!!







こんなことを  
されても…



私はこの人たちを  
救わなければ  
ならないの？…







それはいったい  
どういう  
ことだ？

えっ？



あ…  
あなたがたは  
命を狙われて  
いるんです



こ…この館の  
人たちは恐ろしい  
殺人鬼なのです



な…  
なんだって  
……？

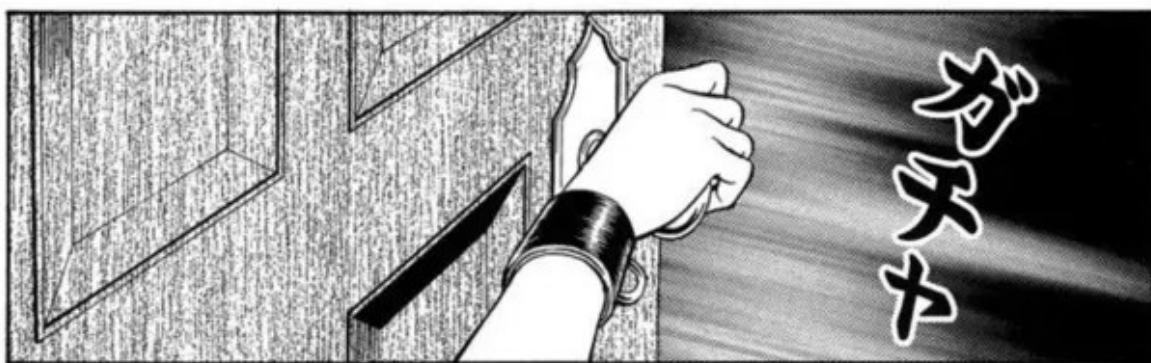
私は森で捕まり  
ここで脅かされて  
いるんです

本当か  
それは！！





ガシァアアイン

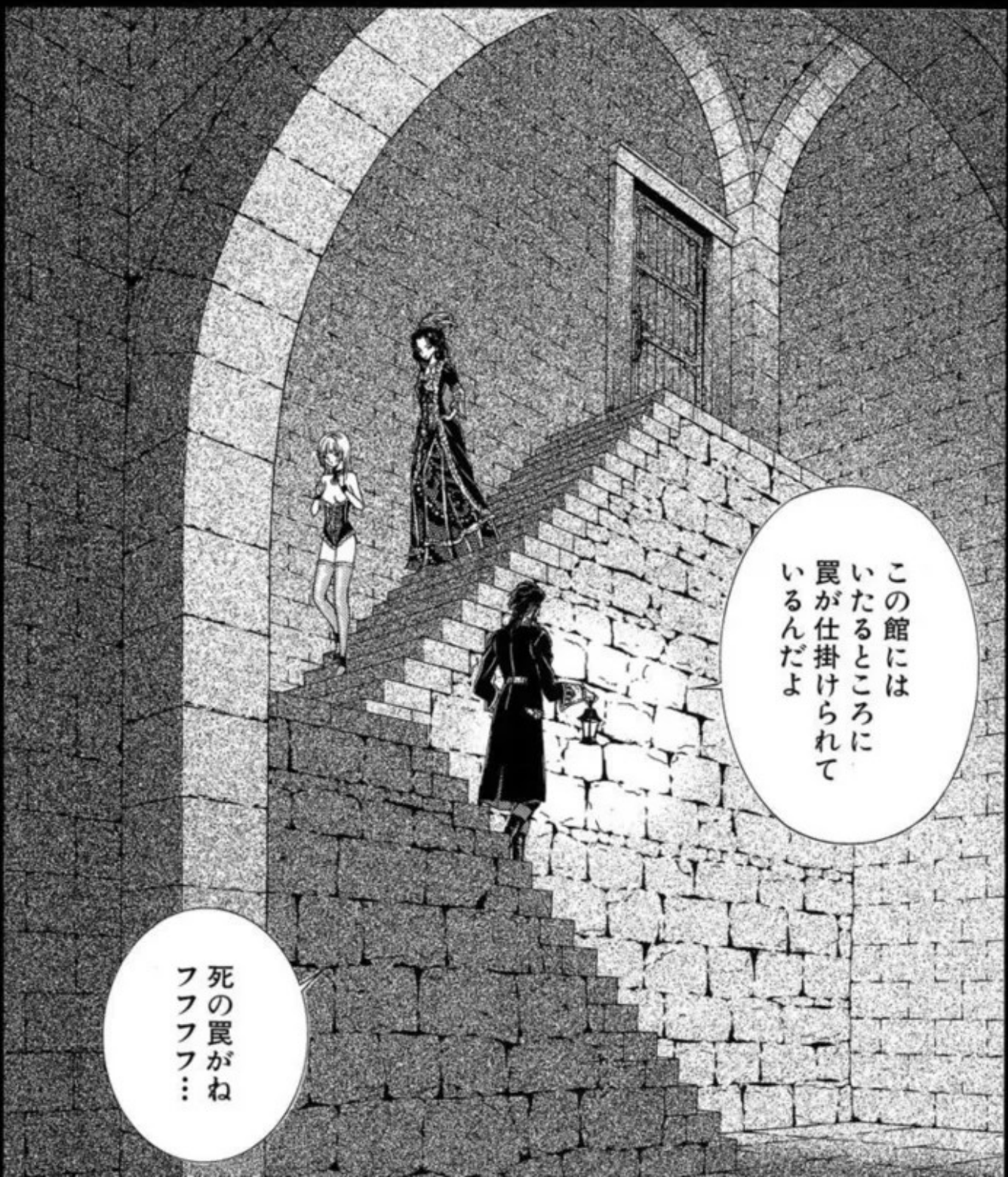








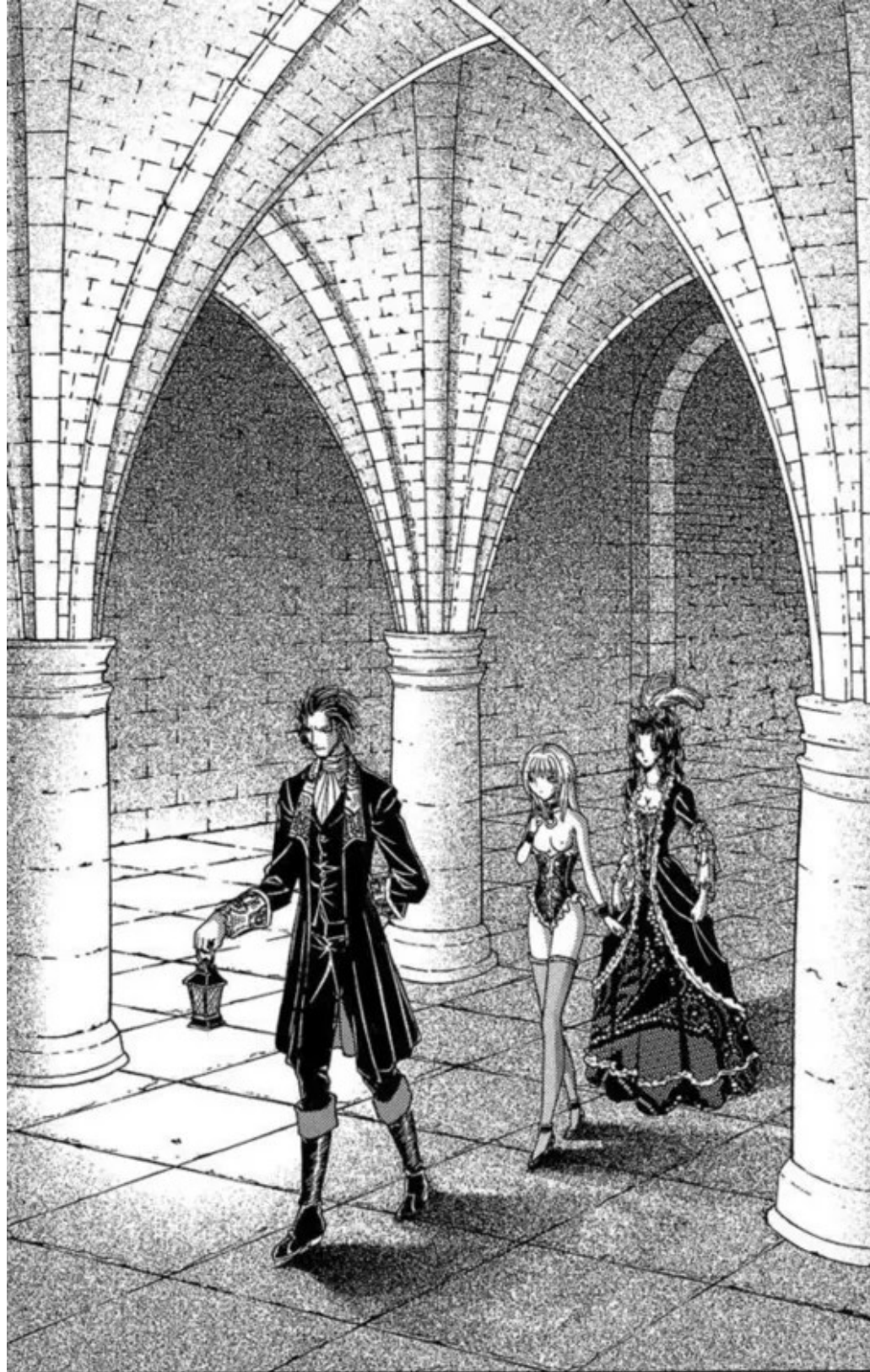
一緒に  
地下室に  
来い  
おまえにも  
見せてやろう



この館には  
いたるところに  
罠が仕掛けられて  
いるんだよ

死の罠がね  
フフフフ





あの客室は  
床がぬけるように  
なっていてね

な…なんて  
むごいことを  
……

ごらんのとおり  
地下まで  
まっさかさまだ

私たちはね  
ソフィー

このような  
刺激がなければ  
興奮しえないん  
ですよ



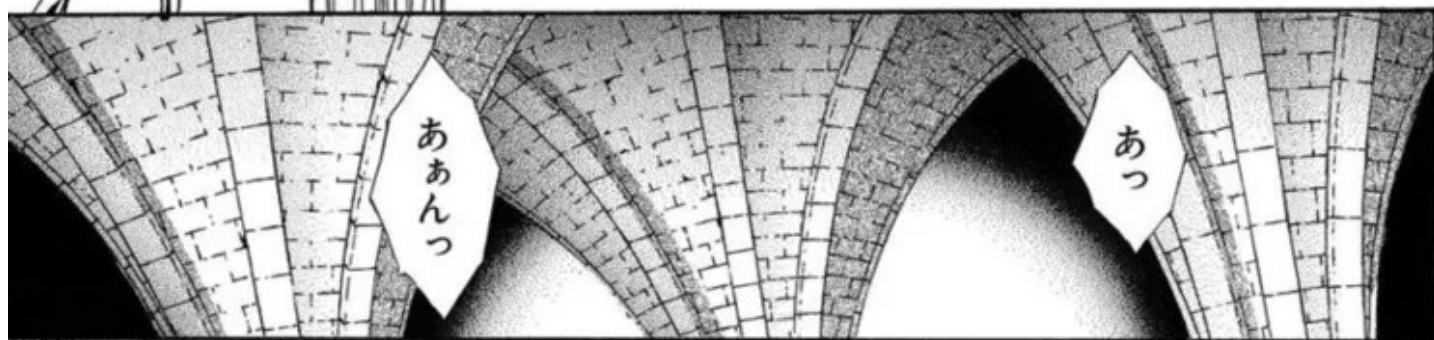


デステル兄様  
私だんだんと  
気が高まって  
まいりましたわ  
……

ああ  
俺もだよ  
ドロテИА



このブザマな  
屍<sup>しな</sup>を前にして  
大いに楽しもうじや  
ないか



ああんっ

あっ



いいわ  
ソフィー







あああつ

あつ

ああんつ

おまえとは  
仲間として  
やっていけそうだ



だが おまえが  
俺たちの欲望の  
犠牲者として  
血祭りにならない  
理由はどこにも  
ないのだよ

で...では  
いつそのこと  
殺してください!!

こんな場所で  
生きていくより  
死んだほうが  
ましです!!







ここで死んだ  
客たちの屍は  
庭の薔薇たちの  
肥料になるのよ



だから  
この庭の薔薇は  
このように美しいの



そ…  
そんな  
……



お願いです  
罫の仕掛けを  
私にも教えて  
ください

それを教えて  
いただかなくては  
客を救うにも  
防ぎようが  
ありません



言っただろう  
ソフィー…  
これは俺たちが  
楽しむための  
ゲームなのだ

残念だが  
仕掛けを教える  
わけにはいかない



もしおまえが  
客を救いたければ  
自分自身で秘密を  
探るしかないだろう



もっとも  
そう簡単に  
見つけれられるとは  
思えんがね…



SADE

# 薔薇の館

ACT・III



この美しい  
薔薇の咲き乱れる  
地獄の館で



あれから  
どのくらいの  
時が経つだろう



私は何人もの  
客の死を  
目にしてきた



結局  
だれ一人  
救うことも  
できずに...





おまえはよく  
やってくれてるよ  
ソフィー!!

ああんっ!!

俺たちの狩りを  
おまえはじつによく  
盛り上げてくれる

おかげで私たちは  
天国の気分を  
十二分に味わうことが  
できるわ

わ…  
私にとってこの館は  
まさに地獄  
そのものです!!

簡単な  
ことだわ  
ソフィー

それは  
神などこの世に  
存在しないという  
証なんですよ

ああんっ

な…なぜ神は  
このような  
地獄の存在を  
お許しになるの  
でしょう!?

そ…  
そんな  
はずは…

ああっ



この世は  
悪に満ちて  
いる…

もし本当に  
神がいるのなら  
無数にある悪の  
存在を知っていながら  
なぜなにもせずに  
いるのだ？

おまえのような  
正直者の娘が  
次々と不運に  
みまわれるのも

神の不在を  
物語っているのでは  
ないのかね？

きっと  
神さまは…

私をためすため  
試験をお与えに  
なっているのです  
……

フフフ…  
どうかしら  
ねえ…

ああつ

いずれにしても  
おまえは私たちを  
楽しませてくれれば  
それでいいのよ



あの  
二人のメイドは  
なぜ平気で  
いられるんですか



あの娘たちは  
子供のころに  
親に捨てられて

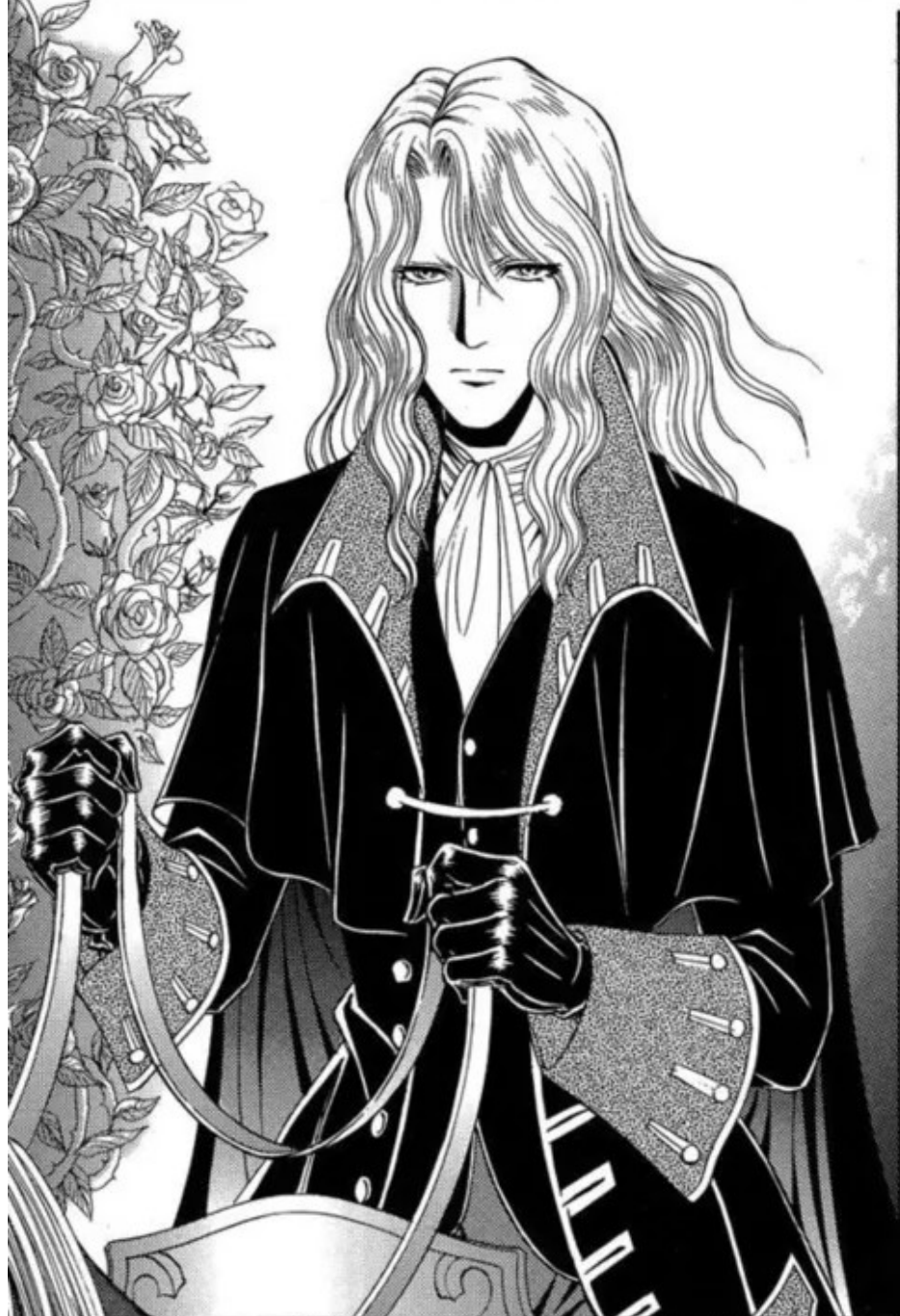
飢えの苦しさから  
食べ物盗んで  
捕まった犯罪者でね



私たちが裁判所へ  
裏から手を回して  
手に入れたわけ

うまく  
手なずけたおかげで  
私たちのすることに  
すっかり慣らされて  
いるわ





ブレサック  
侯爵!!

あ……  
あれは!!

知り合いか？  
ソフィー

以前も  
お話ししましたが  
……

私がお仕えしていた  
伯爵夫人を毒殺し  
その濡れ衣を私に  
させた張本人です  
……

いったい  
なぜこの館に  
……

フフフ…  
こいつは面白い  
ことになって  
きたぞ…

ブレサックとやらが  
おまえの姿を見たら  
どう出るのか…

裁判所へ  
引き立てるか  
それとも殺そうと  
するか…



私はね  
ご主人…

ある女を追って  
森の中を探して  
いたのですよ

気がついたら  
陽も落ちかけ  
戻るに戻れないと  
思っていたところ  
この館を見つけた

それは運がいいと  
いうことですよ  
夜の森は物騒  
ですからな

今夜はゆっくり  
くつろがれるが  
いい…

さっそく  
部屋へ案内  
させましょう

カチカ



お客様の  
どんな要求にも  
したがうよう  
仕込んでおります

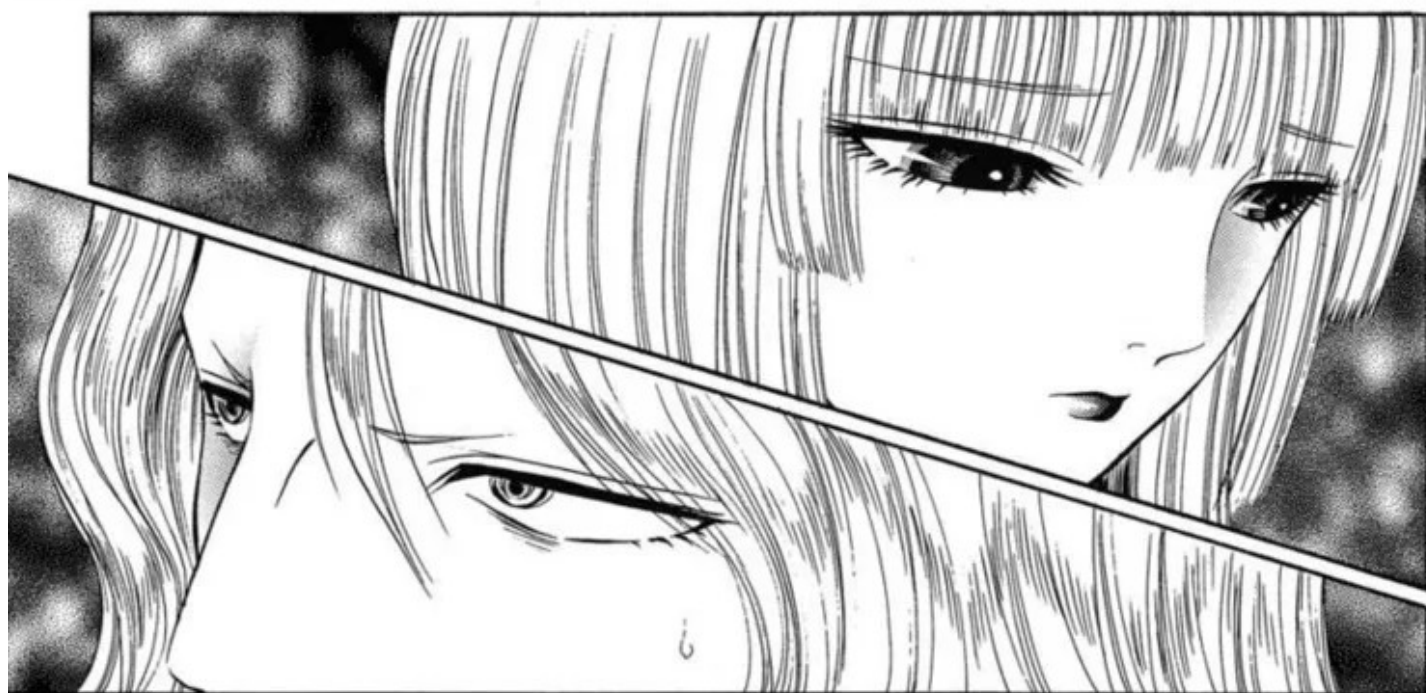


もちろん  
ベッドの相手も  
いたしますわ



この娘が  
お客様の世話を  
いたしますわ







今ここで  
おまえを殺す  
こともできるん  
だぞ…



旦那様…  
あなたには  
ひどい目にあわされ  
ましたけれど

それでも…  
できればあなたの  
命を救って  
さしあげたいと  
思っています



命を救う?…  
それはいいたい  
どういことだ!?

ここのご主人は  
怖ろしい人で  
あなたを亡きもの  
しようたくらんで  
いるのです

ま…  
まさか!!





あの二人の兄妹は  
客を殺すことにのみ  
悦びを感じる  
殺人鬼なのです



客室には  
いたるところに  
罫が張りめぐらして  
あるのです

入ったら  
二度と生きて  
出られない  
でしょう



私はここで  
囚われの身となり  
殺人の片棒を  
かつがされて  
いるんです



逃げるなら  
今です…



おまえが  
嘘をつくような  
女でないことは  
承知している

ソフィー  
よく言ってくれた

ならば  
まずあの二人を  
始末せねば…



さて今夜は  
どの罠をつかって  
楽しもうか



私たちと同じ  
悪人を殺すのは  
心苦しいけれど

でも  
あの美男子は  
私の淫欲をひどく  
そそのめるのよ



どうしても  
殺して  
やりたいわ

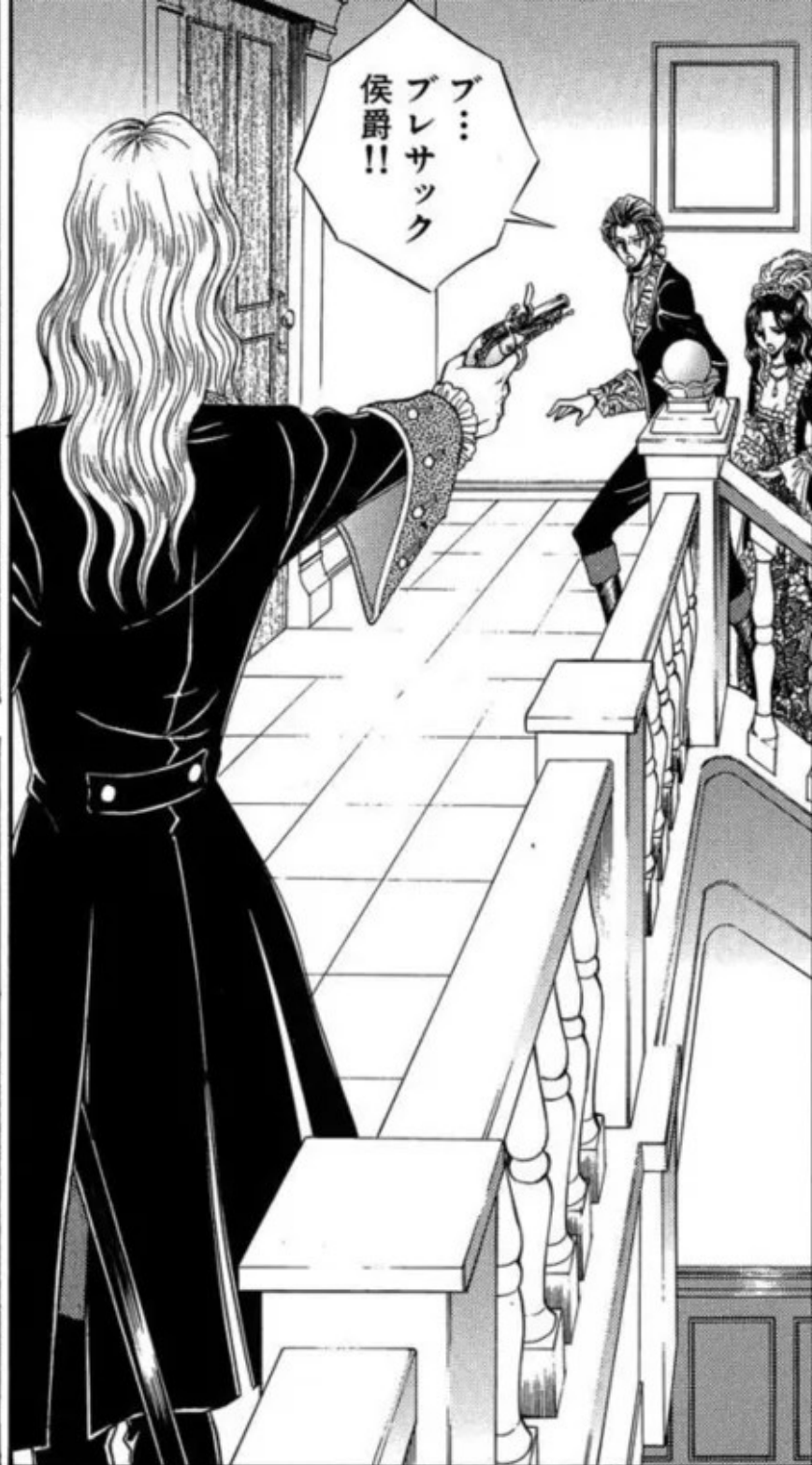
俺も同感だよ  
ドロティア







殺せるなら  
殺してみろ!!



ブ：  
ブレサック  
侯爵!!



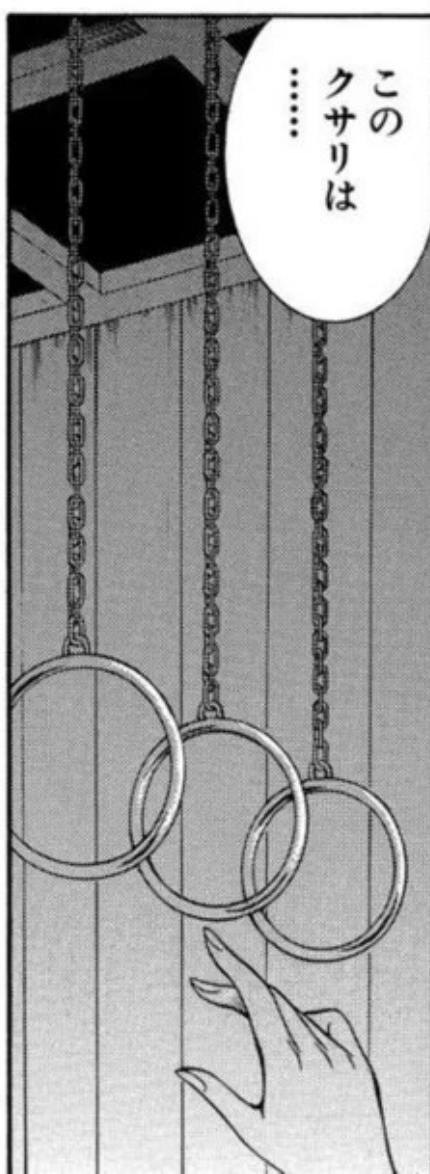
ま...まで  
話を聞いて  
くれ!!



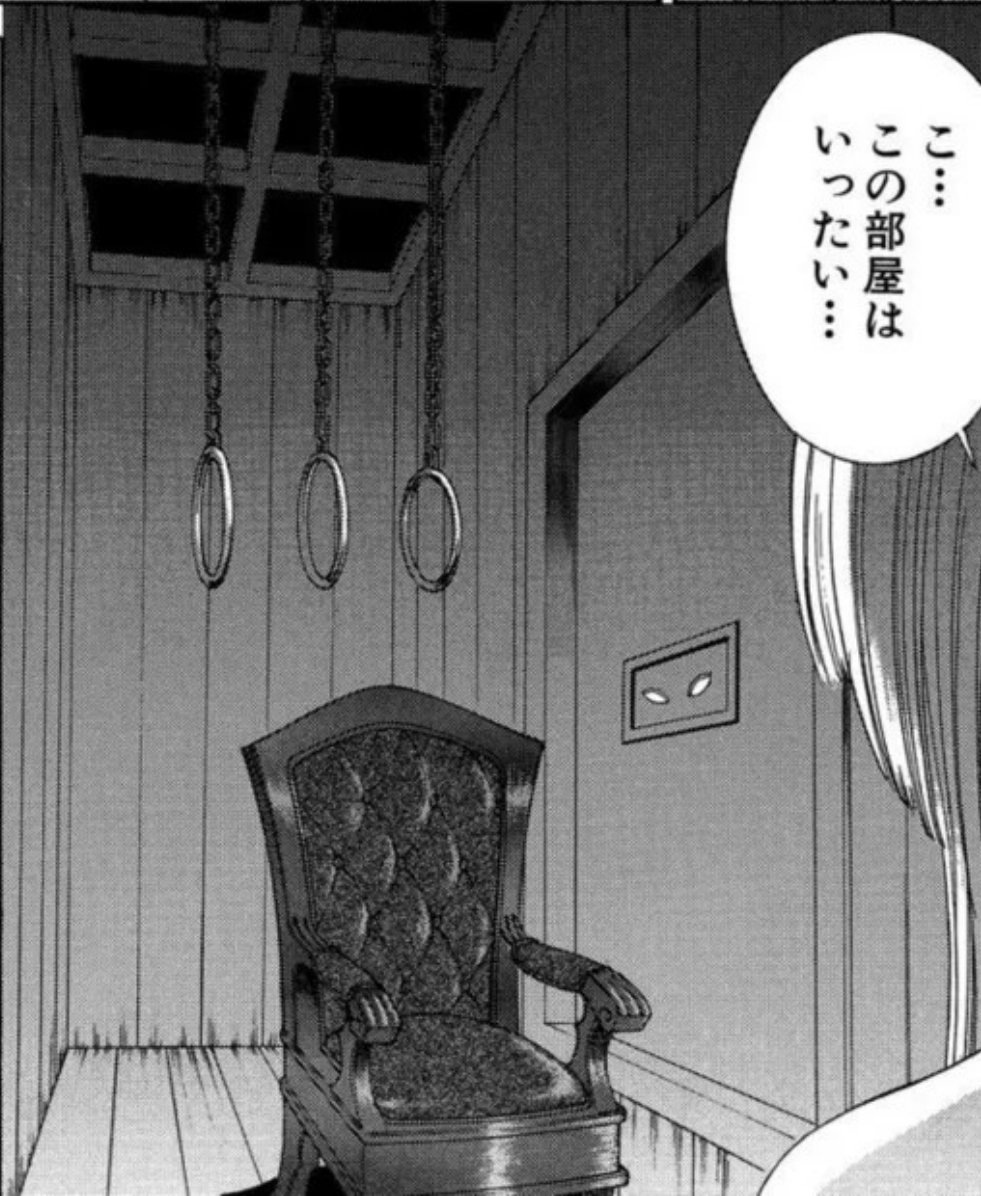








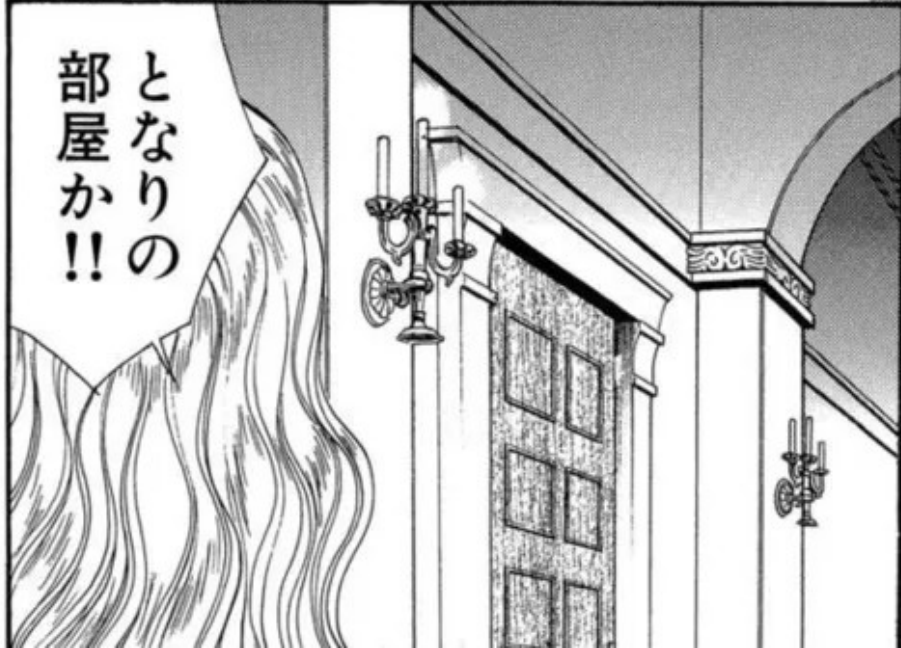
この  
クサリは  
……



こ…  
この部屋は  
…いたい…









# ガチャッ





わああああ

ガタイン



わ…私は  
なんてことを  
……

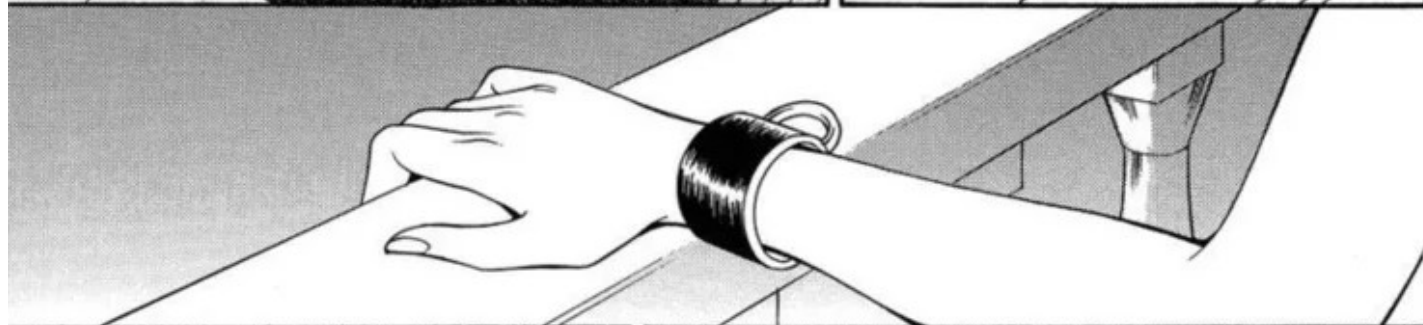
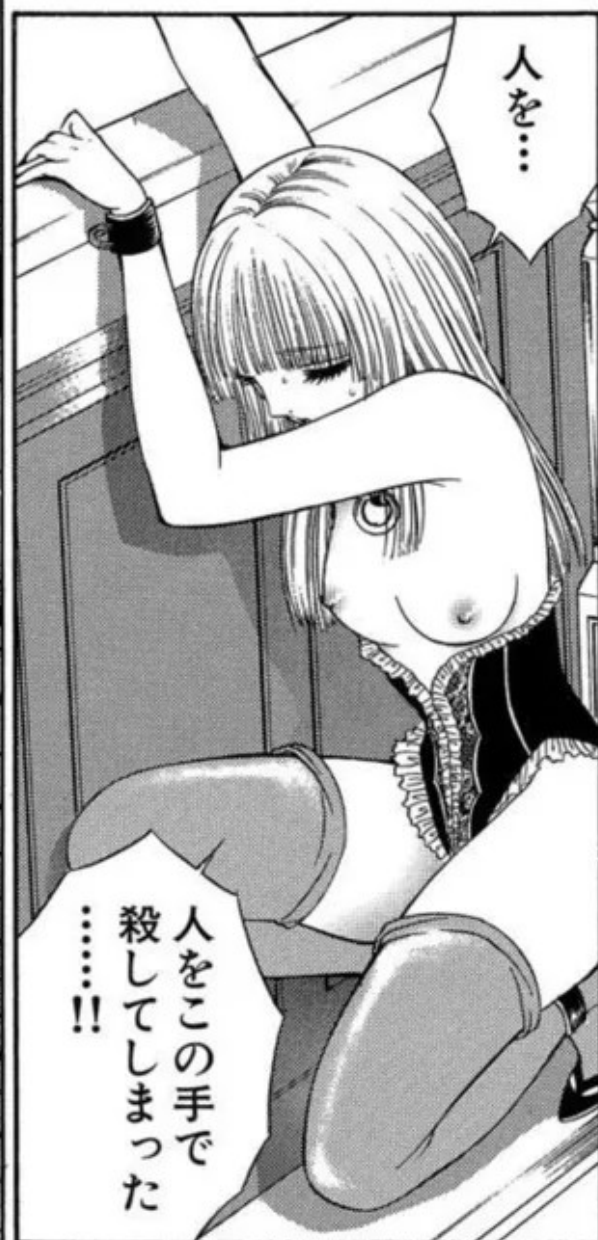


あ…  
あああ…



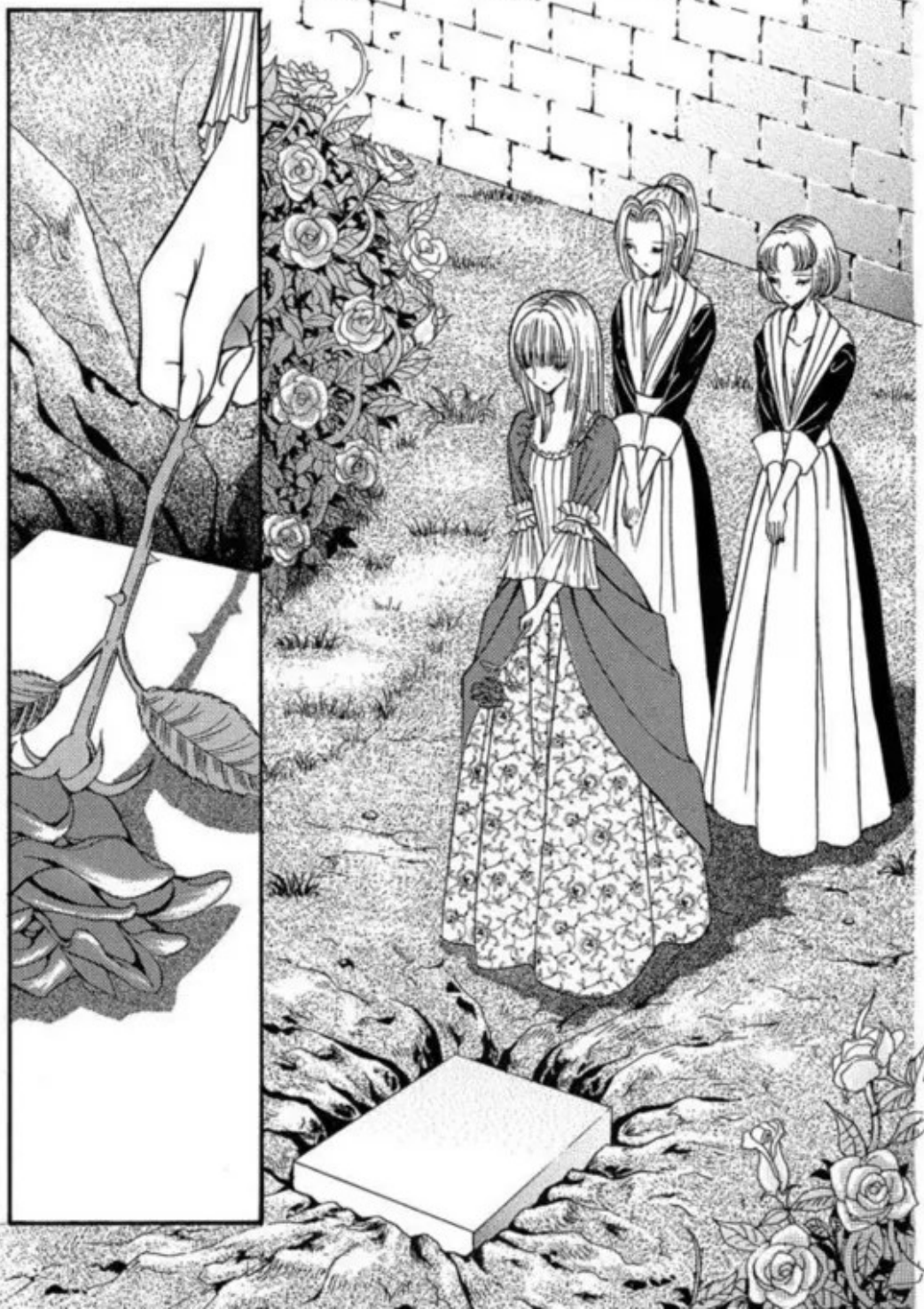
ああああああ















アクセス  
お待ちしております！

## 青林堂刊行書籍ご案内

青林堂●URL <http://www.garo.co.jp>



全国の書店にて好評発売中！  
\*Webでもお買い求めできます。

**おもひでぼろぼろ** 原作 岡本 螢 作画 刀根夕子  
[全2巻] 定価・各850円 ●四六判上製・上巻210頁／下巻194頁

**魔夜子ちゃん 完結編** 御茶漬海苔 著  
[全2巻] 定価・各819円 ●B6判・並製・上巻214頁／下巻190頁

**炭焼物語** 作画 武野繁泰 原作 宇江敏勝  
定価・1365円 ●四六判上製・242頁

**ダ・ヴィンチ** 村野守美 著  
定価・609円 ●B6判・並製・256頁

**守美の日本昔ばなし** 村野守美 著  
定価・924円 ●B6判・並製・256頁

**まいっちゃんぐマチコ先生** えびはら武司 著  
\*ピンクボックス\*ブラックボックス\*ホワイトボックス  
定価・各714円 ●共にB6判・並製・各224頁

**The♡かぼちゃワイン ～sequel～** 三浦みつる 著  
定価・819円 ●B6判・並製・224頁

世界美女秘話シリーズ1 **女帝 エカテリーナ** 榎本由美 著  
定価・1000円 ●A5判・並製・192頁

**キンランドンス** 改訂版 丸尾末広 著  
定価・1470円 ●A5判・並製・192頁

**ラブラブ愛してる♡** 牛乳リンダ 著  
定価・各1000円 ●A5判・並製・144頁

## 千之ナイフの本

\*古典名作集1 **SADE** 定価・819円 ●B6判・並製・208頁

\*古典名作集2 **TEMPEST** 定価・819円 ●B6判・並製・210頁

\*古典名作集3 **DECAMERON** 定価・840円 ●B6判・並製・222頁

\*古典名作集4 **FAUST** 定価・840円 ●B6判・並製・200頁

\*チャイニーズ姑娘編 **EDEN** 定価・819円 ●B6判・並製・163頁

**SEPIA** 定価・840円 ●B6判・並製・163頁

**レズビアン ～少女愛～** 定価・1155円 ●A5判・並製・224頁



ケータイURL <http://mob.garo.co.jp> ケータイコミックサイト「モバガロ」にて、作品を配信中！

※表示の価格は消費税が含まれます。[2008年6月現在]

SEIENDO BOOK SERIES



2008年 6月23日 初版 発行

著者……千之ナイフ  
©N. Senno

発行人……蟹江磐彦

発行所……株式会社青林堂  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-6-19  
電話:03-5468-7769

装幀……原 孝夫

印刷所……株式会社 光邦

ISBN978-4-7926-0408-0 C0979  
Printed in Japan  
乱丁、落丁がありましたらおとりかえいたします。  
URL <http://www.garo.co.jp>



書名

Sade 〈2〉

著者名

千之ナイフ【著】

発行者名

(株)青林堂

発行

(株)青林堂

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷3-7-6 第6矢木ビル4F

電話・・03-5468-7769

URL : <http://www.garo.co.jp>

著作権

©千之ナイフ

電子書籍制作日

2012年12月4日

電子書籍制作会社

株式会社丸井工文社